

統一原理と親孝行

親子関係は幸せの鍵



序

なぜ親孝行か？……………7

第1章

三つの親……………17

第一の親は自然……………18

第二の親は生みの親……………22

第三の親は神様……………26

第2章

「ことば」が創造する……………29

天国ことばが天国をつくる？……………30

原理とことば……………31

ことばの三要素……………32

堕落と「ことば」……………41

責任・創造性・主管性……………43

メシヤはことばの人である……………44

第3章

すべてはつながっている……………49

「太初はひとつであられる」……………50

すべての力は授受作用によって……………52

「主体」と「対象」……………53

万有原力……………56

「よく授け」「よく受け」……………57

すべてはつながっている……………58

ダイヤモンドと黒鉛……………60

四大心情圏から見た連体……………62

自然万物と人間との連体……………64

浪費は罪である……………67

5%理論……………70

宗教の本質は感謝の生活……………72

愛は一つになる力……………75

第4章

「流れ」をつくる……………81

「流れ」と「詰まり」……………82

「病気」と「墮落」の相似性……………85

「親復帰」とは？……………86

流れを良くするポイント……………87

両親は「良神」……………95

第5章

証し…取り戻した絆……………105

共産党員の両親から「教会のおかげで成長したな」と認められて……………106

殺意までいただいた母に10日に一度のハガキ……………111

親への敬拝は神氏族的メシヤの第一歩……………117

父との信頼回復で20年間の摂食障害が改善……………123

自分を大切にすると人も大切にできる……………129

健康は親孝行の第一歩……………131

苦手な人の持ち物を大切に扱うと苦手意識がなくなる……………135

親を尊敬できると兄弟関係もよくなった……………139

よく受けることは、よく与えること……………141

父との和解によって神の愛を実感できるように……………147

講座に参加した方からの手紙とハガキから……………153

第6章

親孝行に関連するみ言……………157

「負債を返そう」……………158

手紙に関するみ言……………173

〈付録〉

クリスチャンの父が天国の娘に送った手紙

「私の大切なプリストルへ」……………179

序 なぜ親孝行か？



愛は一つになることです

父母が子供を愛するように、愛すれば愛するほど喜びが膨れあがるのです。

文鮮明先生のみ言より



私たちは、小さいころから「親孝行をしなさい」と、親からも先生からもよく言われてきました。ところが、子供から見れば、親だから子供の面倒を見るのは当然だという思いもあり、親の大切さやありがたさを本当の意味で感じたのは、自分が親になってからだという人が多いのも事実です。

しかし、「親孝行するとういことがありません」「運が開けますよ」「お得ですよ」と言われるとどうでしょうか？

親孝行は、人として当然するべき「道徳」ではありますが、それだけではありません。実は、「損得」に関わる話でもあるのです。

「親なんか大嫌い」というあなた、もしお得な話だとすればどうでしょうか？

原理講論の第一章、「創造原理」の序文に次のような文章があります。

「人間は長い歴史の期間にわたって、人生と宇宙に関する根本問題を解決するために苦悶してきた。……中略……さらに、我々にはもっと根本的な先決問題が残っている。それは、結果的な存在に関するのではなく、原因的な存在に関する問題である。ゆえに、人生と宇宙に関する問題は、結局それを創造し給うた神が、いかなるお方かということ

を知らない限り解くことができないのである」

このように「人生と宇宙に関する根本問題を解決する」ためには、原因であるところの「それを創造し給うた神が、いかなるお方かということ」を知らない限り解くことができないのである」と説いています。

ということは、「神」は原因であり「人生や宇宙」は結果である、ということなのです。結果的存在である「人生と宇宙」は「私の人生、日常生活」と置き換えることもできるでしょう。

では、私の人生や日常生活の原因となり、深い影響をおよぼしている存在とは、いったい何でしょうか？

それは私の「親」です。

本書は、青年教会員に向けて実施してきた「親孝行講座」の内容を簡単にまとめたものです。講座に参加した多くの青年たちが、人生の根本である親子関係を改善することによって幸せをつかんでいます。

「親のことを、考えるだけでも嫌だ！」という方には、とくにお勧めです。

月刊誌「ゆほびか（2007年11月号）」で「親孝行で開運」特集が生まれ、以下のよ
うな開運の実例が紹介されました。

- ・自分の誕生日に親に花を贈って感謝するとすべての運が開けて成功をつかめる
 - ・親子関係が良好なら恋愛もうまくいく
 - ・自分の願いとともに親の幸せを祈ったら子宝に恵まれ、商売繁盛
 - ・ずっと仲たがいでいた母を許し感謝したら理想の転職ができ、父母の仲まで良好に
 - ・父親との不和は金銭トラブルの元凶。解消し親孝行すれば幸せなお金持ちに
- 以上のように、親孝行すると金運、出世運、健康運、家庭運がアップするとありました。

イイコトづくめですが、孝行といふことを聞くだけで気分が悪くなる方にしてみれ
ば、「親に感謝するなんて死んでもできない」と言われそうです。

そういう方に、作家の三浦じゅんさんは「親孝行はプレイである。孝行息子、娘とい
う役割を意識的に演ずればいい」とアドバイスしています。

「恰好だけ」

「ことばだけ」

これでいいというのです。

まずは、形だけでも実行することが大事で、そうすれば自ずと心はついてくるし、運
も開けるのだという意味にとらえることができます。

金を儲けて親孝行をしたい

親が子供を養い、面倒を見るのは当たり前のことです。そして、子供がその親に感謝
するのも当たり前のはずです。しかし、人間当たり前のことに感謝できるようになると、
その他のちょっとしたことでも感謝できるようになり、多くの人の信頼を得ることがで
きるようになり、やがて金運も良くなってくるそうです。

ボクシングの亀田興毅選手はテレビのインタビュで

「なんでボクシングをはじめたんですか？」と聞かれ、

「金儲けしたいから」と答えたそうです。

いつまでもあると思うな親と「金」



そして、
「金儲けして何をしたいのか？」と聞かれ、
「親孝行したいな」
と即答したそうです。

2011年女子サッカーワールドカップで澤穂希選手さわほしとともに活躍した宮間あや選手は日ごろから「親孝行したい」と口にしていきます。彼女はワールドクラスの技術だけでなく、選手やスタッフからも人望があり、尊敬されています。

日本柔道男子の井上康生監督もそうです。井上選手は2000年シドニーオリンピックでオール一本勝ちで優勝し、金メダルの表彰台で前の年に亡くなった母親の遺影を高々と掲げました。このシーンは全世界に放送され、感動を呼びました。

お母さんは息子に「初心にかえれ」の言葉を遺して亡くなったそうです。井上選手はそのことを胸に刻み、勝利の栄光をお母さんに捧げたのです。

世界レベルのアスリートたちは国を代表して戦っているわけですが、実際のところは「親のために」というモチベーションを強く持っているのではないのでしょうか。

社訓に「親孝行」

一方ビジネスでも「親孝行」を取り入れて成長している会社があります。

キューピー株式会社です。同社の社訓には

- ・道義を重んじること
- ・創意工夫に努めること
- ・親を大切にすること

とあります。創始者の中島董一郎氏は、仕事の基本的な考え方について次のように語っていました。

「…そもうひとつ、親孝行を



してください。わが子を思う親の気持ちをありがたく感じ、それに報いようとする気持ち
が親孝行です。したがって親孝行のできる人とは、人の好意をありがたく感じ、それ
に報いることのできる人です。そういう人の周囲には、また好意を持って接してくれる
人が集まり、その会社はおのずから発展するはずです」（同社ホームページより）

親孝行月間で全従業員に金一封

大阪の住宅会社フジ住宅は毎年4月を「親孝行月間」と定め、全社員に1万円の「寸
志」を支給しています。これはメディアでも報じられました。

「自分の家族を大切にできないような社員が、取引先を大切にできるはずがない。感謝
の気持ちを常に持つてほしい」

「親孝行月間」導入のねらいについて、石本賢一取締役はこう説明する。

親孝行月間は平成16年に導入した。毎年4月1日、宮脇宣綱社長が「寸志」と書かれ
た封筒を社員全員に渡す。その額1万円。正社員だけでなく、契約社員やパート社員も

含めた全在職者が対象で、支出額は1千万円を超え、半端な金額ではない。

それでも「それに見合うだけの効果は十分にある」と石本取締役は断言する。その理
由は何だろう。

社員は1万円をどのように使ったかを文書で報告することになっている。その内容を
見ていて、社内外に対して思いやりのある、優しい社員の比率が高くなっていることを
実感するからだという。（2013年1月27日 産経ニュースwestより）

徳は得につながる

「親孝行は徳のはじめ」と言いますが、開運やビジネスでも通じるということですから、
「親孝行は『得』のはじめ」と言ってもいいでしょう。やれば得をするし、やらなけれ
ば損をすることになります。

よくスーパーで「おとく」という単語が使われますが、「おとく」には「お得」と「お
徳」の意味があるように、本来、道徳と損得は一致しているものなかもしれませぬ。

親孝行という字を見ても、孝の行いと書くように、「行い」つまり行動することが大



事ということ。韓国では孝道（孝子の道理）ということから、孝はルール（人間として行すべき規則）だということです。親孝行の「心」の持ち方ばかりを強調しすぎて、「行い」がなければ意味がないということです。

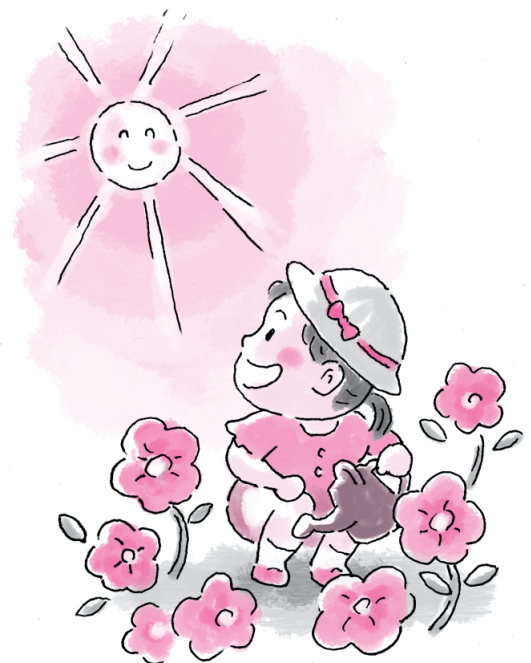
心だけでは、「得」も「徳」も手に入らないのです。

■序のまとめ■

東洋では昔から「孝は徳の始め」と言われてきましたが、現代では企業でも孝が注目されるようになってきました。社員個人の人間性育成（徳育）のために、「親孝行」が見直されるようになりました。

第 1 章

三つの親



神様の愛は、太陽より強いのです

神様の愛は生命の起源であり、私たち人間の本心の起源であり、幸福の源泉であり、平和の源泉です。

文鮮明先生のみ言より



統一原理を解明した、文鮮明先生は親には三つの親があると説いています。
第一の親は自然、第二の親は自分を生んでくれた親、第三の親は究極的な親、つまり創造主である神様です。

ですから親孝行するということは、この三つの親の願いに応えるということになります。

第一の親は自然

私たちの肉体はすべて自然万物を摂取することによってつくられています。言い換えると、万物が私のためにその命を犠牲にしてくださったということです。ですからご飯をいただくときに、「ありがとうございます」と感謝の祈りをするのは当然のことといえます。

禅寺では食事の前に「五観の偈」を唱えます。

一、この食事が調えられるまでのたくさんの人々の働きに感謝します

二、この食事をいただくにふさわしい行いをしているかを省みます

三、心を正しくし、過った行いをしないために、貪りなどの三毒を持たないことを誓います

四、食事は良薬であり、体を養い、健康であるためにいただきます

五、自分の道を成し遂げるために、今この食事をいただきます

人間がどれほど素晴らしいかという点、愛のオーケストラを奏で、愛がすべての脈拍を中心として宇宙すべてを生かしている動物世界、植物世界を食べるということは、愛の結果を食べて生きるということです。

食堂で食事をする時、パンが一つ残っていても、「これが、世界的に数多くの手を経てここまで来るために、旅行手段がどれほど多く、どれほど多くの苦痛に勝ってきたのだろうか。すべての人の努力の結果、愛の結果としてつくられたものを持ってきて私に進上されたので、愛の主人である私がパートナーのように思いながら食べてあげなければならぬ」と考えなければならぬのです。

ところがそれを嫌う人には病気がついてくるようになっていきます。好む人からは、病気が退くようになっていきます。(文鮮明先生のみ言より)





宇宙万物は、愛を基礎にして生きていくのです



愛を通じて生きるとき、人間世界には幸福がはじまります。人間自身が成そうとする完成とか理想の実現は、愛の基準を離れてはありえません。ですから宇宙万物は、愛を基礎にして生きていくのです。創造されたすべての万物は、神様の根源の愛を中心としてはじまりました。(文鮮明先生のみ言より)

食事中は私語が禁止、一口ごとに箸をおき、良く噛んで食べる等、食事そのものが大切な修行として位置づけられています。

自然万物を拝むがごとく大切に作る姿勢はとても美しいものです。

同じ食事でもゆっくりと、良く噛んで食べた方が、エネルギーを多く消費し、ダイエット効果も高いことが医学的にも証明されています。

また禅寺といえば、掃除も徹底しています。汚れていなくても掃除をします。一に掃除、二に座禅、三に勉強と言われているほどです。一に座禅ではないのですね。

近年大ブームの「断捨離」も禅寺の宿坊からヒントを得たと言います。

周辺をきれいにし、心までもきれいにする掃除は、運を呼び込むことでもあり、一般に言われているように究極の風水と言ってもいいでしょう。

また、万物を徹底して主管する生活をしているお寺のみなさんはとても頑強です。

このように、身の回りの万物を愛し、大切に扱うこと、「本当にありがたいな」と思えるようになることは、第一の親である『自然』に親孝行をしていると言えますね。

第二の親は生みの親

それでは生んでくれた親への孝行はどうしたらいいのでしょうか？
そのためにはまず親の子供に対する思いや願いを知ることです。

どんな親でも口酸っぱく言い続けるせりふがあります。

「ご飯（野菜）をちゃんと食べなさい」

「勉強しなさい」

「兄弟どうし仲良くしなさい」

みなさんいかがですか？

「ご飯を食べなさい」とは要するに健康であってほしいということです。親は子供が成人するまでご飯を食べさせてくれます。しかも無料です。喰わず嫌いのわがまま息子にも、お母さんは僕のように食事を準備します。他人には絶対できないことです。

「孝」に関する中国の古典「孝経」に次の有名な一節があります。

身体髪膚、これ父母に受く、

あえて毀傷せざるは、

孝のはじめなり。

意味は、私の体のすべては親からいただいたものだから、傷をつけたりしないようにすることが、親孝行の第一歩だ、ということなのです。

「勉強しなさい」は社会に役立つ立派な人になってほしいからです。親は、自分よりも立派になってほしいと願っています。子供の学費のためならば、自分の生活を切り詰めて、頑張ることができます。先の「孝経」では

身を立て道を行い、

名を後世に揚げ、



もって父母をあ頭あわすは、
孝の終りなり。

として、孝の終わりは自分が立派になることで、結果的に親が世間から称賛されることだと説いています。

「兄弟仲良くしなさい」は言うまでもありませんね。親にはよく尽くすのに、兄弟には無関心というのは、親孝行とは言えないということです。

天国へ行く道は、兄弟を神様のように愛するところから開かれます。皆さんは、先生について行くこととしますが、その心で兄弟に従って共に行こうと努力しなければなりません。天国に一番高く、早く、良く導く者は、神様でもなく、先生でもなく、兄弟だという結論を下すようになります。

孝子とは何でしょうか？ 父母だけのために精誠を尽くす人ではありません。父母のためにするように、兄弟のためにも精誠を尽くす人が孝子だということを知らなければなりません。

子供は親にとって結果であり、作品のような存在です。作品の良し悪しはそのまま親の良し悪しにつながります。いくら個人主義の時代とはいえ、親は子供に対する評価に一喜一憂するのです。兄弟げんかであれ、なんであれ、子供が傷つくことは、親も傷つくのです。

逆に子供がほめられれば親も喜びます。日ごろ自分の子供を「うちの子はできが悪いので…」などと周りに話していても、他人から「あそこの息子は本当にできが悪い」と言われたら、ものすごく腹をたて、落胆するはずで、親にとって子供を褒めてくれる人はいい人で、バカにする人は悪い人なのです。いくら正しいことを言っているとしても……。

へその緒は誕生したら切れますが、目に見えない「へその緒」は死ぬまでつながっているのです。親が子供を勘当しても、あるいは子供から親との縁を切ったとしても、へその緒は切れないのです。ですからどちらか一方が幸せで、どちらかが不幸ということとはなく、お互いに幸せになるか、不幸せになるかなのです。とすれば親子一緒に幸せになれる方を選ぶのが賢明というものです。





第三の親は神様

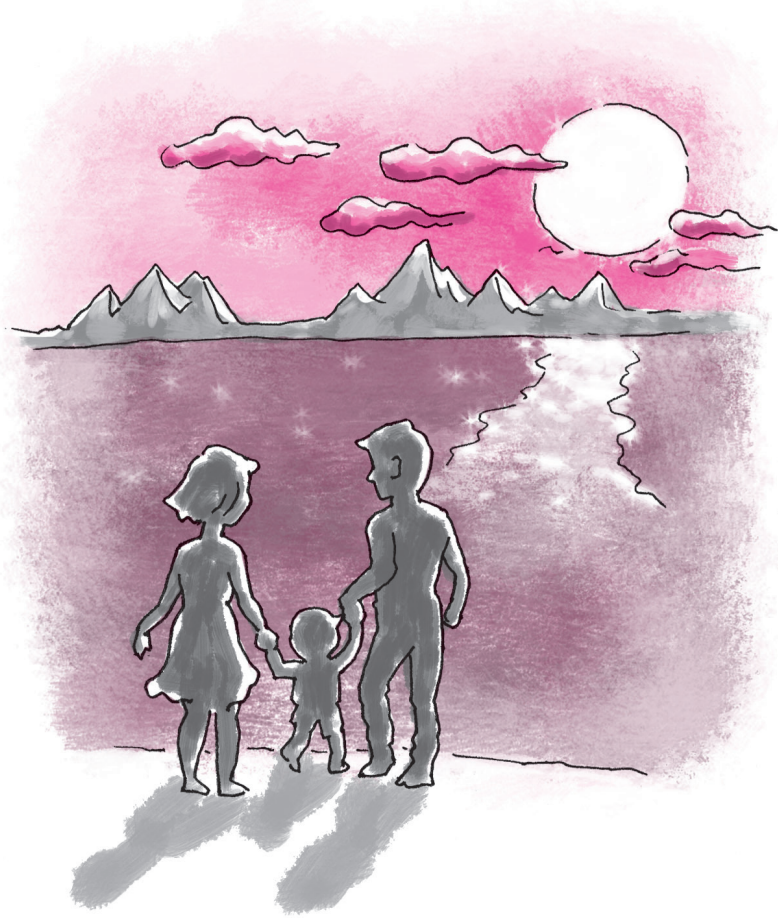
神様は人間の幸せのために人間が生きていくことのできる環境と万物を準備されました。

具体的にはまず家族と故郷の自然万物であり、その延長線上に自分が結婚して築く家庭や職場、地域の環境なども含まれます。

神様への親孝行とは家族や隣人を愛し、住まいの環境や食事を大切に扱うことによつて、私が健康で、愛ある人に成長することにはかなりません。

統一原理では三大祝福を成就し、自らを完成することが人間の責任分担であると説いています。ですが、まさしく、自らの完成に向かって生きることこそ親孝行であるといえます。

神様と人間は親子の関係です



神様と人間はどこで連結されるのでしょうか。
生命が交流するところ、愛が交流するところ、理想が交流するところ
です。その点とはどのような点でしょうか？
親子関係です。(文鮮明先生のみ言より)



人間の責任分担とは何ですか。
自分自ら完成することではないですか。

山川草木、動物まですべて愛せる立場に立ったならば、その基盤の上で人を愛するのです。万物を復帰してから人を愛するようになっていくのです。

第二章からは簡単にできる親孝行とそのための考え方を紹介します。

■この章のまとめ■

第一の親は自然万物、第二の親は肉身、第三の親は永遠の親である神様です。

第一の親への孝行とは、身近な自然万物を大切に扱うことです。とくに日ごろの掃除と食事が大事です。

第二の親への孝行とは父母を大切にすることです。とくに日ごろの親の言葉が大事です。

第一と第二の親孝行によって、第三の親である神様を大切にすることになります。

第2章

ことばが創造する



初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
この言は初めに神と共にあった。
すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、
一つとしてこれによらないものはなかった。

(ヨハネによる福音書第1章1〜3)

天国ことばが天国をつくる？

「銀座まるかん」の社長で、納税額日本一の齋藤一人さんが「天国ことば」と「地獄ことば」の話をしています。

「ありがとう」を口ぐせにすると、また言いたくなるような、しあわせなことがたくさん身の回りに起こるようになり、悪口や文句をいつも言っていると、もう一度こういふことばを言ってしまうような、イヤなことが起きるようになるということです。

普通であればいいことがあれば感謝をし、悪いことがあれば不平を言うものですが、一人さんの話は逆をついているわけです。

つまり、いいことがなくても、「ありがとう」と言い続けていれば幸せなことがあり、悪いことばを吐いていると、悪いことが起こってくるというわけです。

普通、人は心に思ったことを口に出すものです。「心にもないことを言う」ことはうそであり、不誠実だと思いがちです。しかし、一人さんは心に思っていないけれども、ことばにしてみることが実際は大切だということを教えているのです。

不平を言えば地獄であり、不平を言うところを感謝していけば、天国なのです。

原理とことば

聖書には「初めに言ことばがあった。言は神と共にあった。言は神であった。すべてのものは、これによって出来た」(ヨハネによる福音書1章)と書かれています。つまり神は言によって宇宙と人間を創造したということです。イエス様の次のことばは有名ですね。

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」(マタイによる福音書4章)

原理ではこの「言」をロゴスと呼んでいます。ロゴスは設計図のようなもので、あと材料があれば創造が可能です。人が何かをつくらうとする際に、まずは頭に「こういうようなものがないな」とイメージします。次いで設計図を書き、材料を集めて実際に製造作業に進みます。このプロセスはまさしく神の創造性を表しており、人間はこれを受けついでいるということです。この場合も大切なのは設計図です。どんなに思いがあっても、設計図通りにしかつくれないからです。

ですから「ありがたい世界がいいな」と思うのであれば、「ありがたいね」「ありがとうね」ということばを口ぐせにすれば、必ずそれが実現するようになってるのが天地創造の原理なのです。

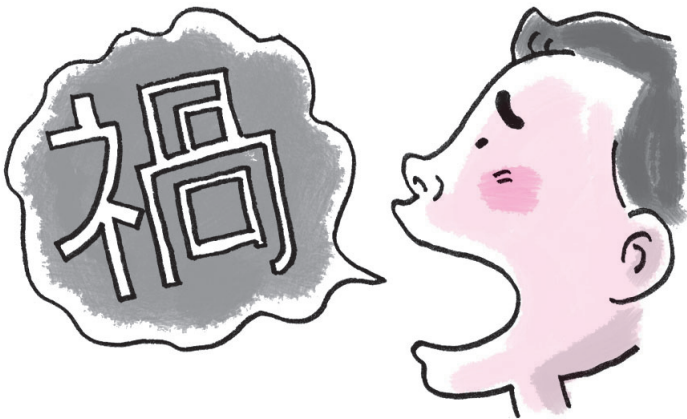
ことばの三要素

- この講座では、ことばには三つの要素、機能があると考えます。
- 一つは、いわゆる「心の糧」としてのことばです。栄養分です。
- 二つ目は、「プログラム」としてのことばです。
- 三つ目は、少しわかりにくいかも知れませんが、「責任分担」としてのことばです。

1 心の糧としてのことば

健全な精神を育てるためには、良書などいいことば、温かいことばに触れることが必要です。逆に、日ごろ悪書や不平不満のことばに触れていると人間性が荒んでいきます。

禍は口から



聖書に「口にはいるものは人を汚すこととはない。かえって口からでるものが人を汚すのである」(マタイによる福音書15章)と書いてある通りです。

原理講論には「自然界より摂取する栄養素によって肉身を生かし、神の口から出るみ言によって霊人体を生かすようになっている」と書かれています。

ところで、不健康な人は、甘いものや脂っこい物など刺激の強い食べ物やジャンクフードを好みます。その結果、ますます不健康になります。逆に、健康な人は体にいいものを好みます。その結果ますます健康になります。



同様に、心が荒んでいる人は、刺激的な情報や不平不満のことは好みます。その結果ますます心が荒んでいきます。

心の健全な人は心にいいものを見たり、聴いたり、口にします。その結果ますます健全になります。

悪口は脳にも悪い！

フィンランドの脳神経学者トルパネン博士とその研究チームは、平均年齢71歳の1449人にある調査を行いました。一人ひとりに普段どれくらいゴシップを流したり、人を批判したり、意地悪な態度をとっているかの質問をしました。

そしてそれが認知症とどう関わっているのかを調べたのです。

その結果、ゴシップが好きな人はそうではない人に比べると認知症になる危険性が3倍も高いことがわかったのです。

親に「ありがとう」ハガキを書こう

「ありがとう」に関するある調査によると、「誰からほめられると、最もうれしいですか」

という質問に対して、上司や友達よりも、親や子供にほめられたいそうです。実際には友達はよくほめるのに、親には言えていないこともわかりました。

さらにネスレ日本株式会社が2013年に実施した「日常の感謝行動」に関するアンケートによると、「ありがとう」をたくさん言う人ほど精神的なストレスを引きずりにくいことがわかりました。「ありがとう」を1日に20回以上言う人の36・6%がストレスを受けても1日経てば忘れており、全く言わない人の40・5%が1週間以上引きずるという対照的な結果でした。「ありがとう」のことはポジティブで“おとく”であることが明らかになりました。

「ありがとう」を言う側がそうですから、聴く側にも同じようにいい効果がでるはず
です。

文先生は10日に一度、親に手紙を書きなさいと教えています。本講座では手紙だとなかなか取り組めない方が多いので、ハガキを薦めます。普段、面と向かって「ありがとう」を言えなくても、ハガキや手紙なら言いやすいですね。

誰でも結婚式では、必ず親に対して感謝の手紙を書いて読みます。書けば感謝の思い

が湧いてくるものです、そして、読んで伝えることで親子の絆となります。

母親に1日1枚のハガキを書き続けた娘の物語

10日に一度は大変だという方におススメなのは、2008年11月、「エチカの鏡」（フジテレビ系列）で紹介された西宮市の脇谷さんの物語です。

脇谷さんは重度の障がいを持つ娘を介護するなか、郷里の母がうつ病を発症。「死にたい」と言う母に、1日も欠かさずにハガキを届けます。母が「ぐすつ」と笑ってくれたら、死にたいという気持ちを忘れてくれると強く信じて……。

毎日、娘から届くハガキは、やがて母の生命のなかで確かな希望となり、うつ病を克服します。この感動のストーリーは、書籍『希望のスイッチは、くすつ』（脇谷みどり著）にもなりました。

これまで、この講座を開催していく中で体験談が寄せられてきました。その中から、これと似たケースを紹介しましょう。

14年間続いた母の統合失調症が改善

私の母は家事・仕事、3人の子育てをし、毎日頑張っていました。ところが、14年前に統合失調症を発症し、その後は判断力やコミュニケーション能力が次第に衰えてしまいました。また、やる気がなくなる病気なので食事作りと掃除はできず、1日中寝る日々が続きました。

そして私は、新潟の実家から上京した後、お正月とお盆の帰省時以外はほぼ親に連絡は取らなくなりました。

ずっと何とかしたい思いがありました。が、そのままでした。2年3カ月ほど前のそんな状況のときに、親孝行講座を聞いたのです。その講座できっかけをつかむこと



雨垂れ石を穿つ



ができ、まずは、親の写真を前にして敬拝をはじめました。そして、1年9カ月前からは月に2〜3回親に写真を送り、6カ月前からは10日に1回のハガキを出しはじめました。

またドコモの電子版写真立て「フォトパネル」を購入して母にプレゼントし、母が10×15cmくらいの画面で写真を見れるようにしました。写真の内容は自然や笑顔など、母の気持ちを癒やせる内容のを選んで撮影して送りました。

ハガキは母、父、祖父、一人ひとりに10日に1回送り、内容は賛美と感謝のことばを書きました。

取組みをはじめてから、母にちょっとしたプラスの変化があったお陰で継続できました。なかでも、一番変化があったのはハガキを出しはじめて3カ月経過したときのこと、母が電話で「最近体調がよい」こと、「最近3週間継続して食事づくりをしている」こと、「家中の掃除をした」こと、それが「写真やハガキのお陰」だと嬉しそうに語ってくれたことです。

ハガキを出しはじめて5カ月後に帰省した際には、病気発症後に険悪になっていた夫婦仲が昔の仲のよい状態に戻りつつあることに気づきました。また、ハガキをはじめる前に怪我でヒステリーを起こしていた祖父の心も安定し、いつもの温厚な祖父に戻っていたのです。

講座では霊人体を生かす生素は、み言(霊の糧・善なることば、温かいことば)であり、定期的にハガキを通じて善なることばを父・母・祖父一人ひとりに与えたことよって、心が満たされ、家族間で情が流れるようになり、関係が改善されていった、このことでした。

母の病気や家族の関係に対して、取組みをはじめる前は本当に先が見えない状態でした。
神様・真の父母様の精诚により教えていただいた原理の内容によって、母の病気が改善、家族の関係が修復され、心から感謝いたします。(28歳 女性 新潟県出身)

2 プログラムとワークのことば

小さいころから親に「お前はできが悪い」と言い続けられたとします。
さらに自分でも「どうせ俺は頭が悪いから」と言い聞かせたとします。

その結果、本当にそのような自分がつくられていくものです。

「思考が現実化する」ということばがありますが、思考とはことばで構成されていますから、「ことばが現実化する」と言い換えることができますでしょう。

スマートホンなら、アプリ（アプリケーション・プログラム）をインストールすればプログラムされたように機能し、アンインストールすればその機能は働かなくなります。人間でも、よいことばをインストールし、悪いことばをアンインストールする作業が大切です。

人は自分を害することばを無意識のうちにインストールしているものです。これを消して、自分の成長に必要なことばを、意識してどんどんインストールしましょう。

3 責任分担としての「ことば」

よく遅刻する人には必ず言い訳が準備されています。「渋滞のせい」「目覚まし時計が故障したせい」「出がけに重要な電話が入ったせい」。つまり自分以外にその原因をおくことで、自分の責任ではないと言いたいのです。ところがその結果、相手からは信頼を失い、自分自身も「さえないよな」と落ち込んでいきます。

では、さえている人はどういうことばを使うのでしょうか？

「もっと早く起きれば遅刻せずにすみました。今後このようなことはないように注意します。申し訳ありませんでした」と、自分の責任を認めます。そして謝罪します。

そうすると相手も自分自身も、納得した、すっきりした気持ちになります。その後、この人は二度と遅刻することはなくなるでしょう。

墮落の「ことば」

エバは天使長の不義のことばに従っ

過ちては改むるに憚ること勿れ





しもべ
責任転嫁は僕の**ことば**

僕の言葉	主人の言葉
親のせい	私の責任
国のせい	私が決めた
上から言われたから	
道が渋滞していたから	私が早く家を出れば
お金がないから	私がやろうとしなかった
時間がないから	
頭が悪いから	私が勉強しなかった
私だけじゃない	他の人は関係ない

て墮落しました。結局、ことばが墮落行為をつくったといえます。その後、アダムとエバは自分たちの墮落行為を天使長に責任転嫁しました。その結果、二人は天使長の僕の位置に堕ちてしまったのです。

アダム、エバがなぜ墮落したかという根源を探ってみると、アダム、エバは神様が命令した、「善悪の実を取って食べるな」ということばを不信して墮落しました。

もし神様の前で、アダムとエバが「自分たちの責任でした、天使長のせいではありません」と悔い改めたならば、復帰は簡単でした。

「誰か（何か）のせいだ」と責任転嫁する人は、その誰か（何か）に対して自らに対する主管性を明け渡したことになるのです。つまり、その誰か（何か）の奴隷になることを認めてしまうことになります。

これほど損な話はありません。よく注意しましょう。

責任・創造性・主管性

原理では、責任分担を果たすことによって神の創造性と主管性を相続できると説いています。成功する人は、この責任を果たすという原理をよく理解し、実践しています。会社の中では自分が取ろうとする責任の大きさに応じて、権限が与えられるものです。また、責任を持って仕事をする人は、アイデアもどんどん生まれてきます。そしてその責任を果たすことで出世し、より大きな権限が与えられることになります。

責任を取ろうとしない人には、役に立つアイデアも生まれず、権限も与えられることはありません。「誰か」や「何か」のせ



いにするということは、責任を放棄することであり、その結果として創造性と主管性も一緒に放棄することになります。

「責任感がある」人は「責任を取ることを言える」人なのです。

メシヤはことばの人である

文先生は「ことばの人」だといえるでしょう。どういう意味かというと、自分の語ることばにうそがなく、人のことばもそのまま信じられる方だということです。だからだまされることはありません。

文先生が16歳の時に詠まれた「栄光の王冠」という詩があります。

私が人を疑う時 私は苦痛を感じます。

私が人を審判する時 私は耐えられなくなります。

私が人を憎む時 私は存在価値を失ってしまいます。

しかし もし信じれば 私はだまされてしまいます。

今宵 私は手のひらに頭を埋め 苦痛と悲しみに震えています。

私が間違っているのでしょうか。

そうです。私が間違っているのです。

たとえ だまされたとしても 信じなければなりません。

たとえ 裏切られたとしても 赦さなければなりません。

憎む者までも ことごとく愛してください。

涙を拭いて 微笑みで迎えてください。

人をだますことしか知らぬ者たちを

裏切りながらも 悔い改めのできない者たちまでも…。

おお主よ！ 愛するという痛みよ！

私のこの苦痛を御覧ください！





熱きこの胸に 主のみ手を当ててください！

私の心臓は 深き苦悩ゆえに 張り裂けんばかりです。

しかし 裏切った者たちを愛した時 私は勝利を勝ち取りました。

もし あなたも 私のように愛するならば

私はあなたに 「栄光の王冠」をお捧げします。

(Rev. Sun Myung Moon 1965年)

人を信じるかどうかというのは、「信」という漢字が人と言ことばから構成されているように、その人の「ことば」を信じるかどうかということです。

文先生はメシヤなのだから嘘を見抜けるはずだと言う方がいます。もちろん見抜くことがおできになります。しかし、嘘を見抜ける力がメシヤの偉大なのではなく、どこまでも相手を信じ、愛し、許すことができるこそが偉大なのです。

文先生のように相手のついた嘘をそのまま信じるとすれば、相手は二度と嘘はつけなくなるでしょう。人を信じ、自分を信じることを学ぶならば、やがて人から信じられる

人に生まれ変わるにちがいありません。

服従すればどうなるのでしょうか。一つになります。一つになればどうなるのでしょうか。悪は反発します。完全に一つになっているので、悪は反発するのです。それで悪が除去され得るのです。

丸ごと飲み込むことができない人は、天下を統一することはできません。丸ごと食べることができなければなりません。良いものも食べるし、悪いものも食べることができなければならないのです。

墮落した人間は、悪いものは投げ捨て、良いものだけを食べようとするでしょう？
愛はそうではありません。愛は地獄まで中に入れて消化するのです。

■この章のまとめ■

思いからことばが生じるのは理想ですが、現実を動かすのはことば（発言、法律、設計図、プログラムなど）ですから、思いにこだわりすぎず、言葉にフォーカスしてみま





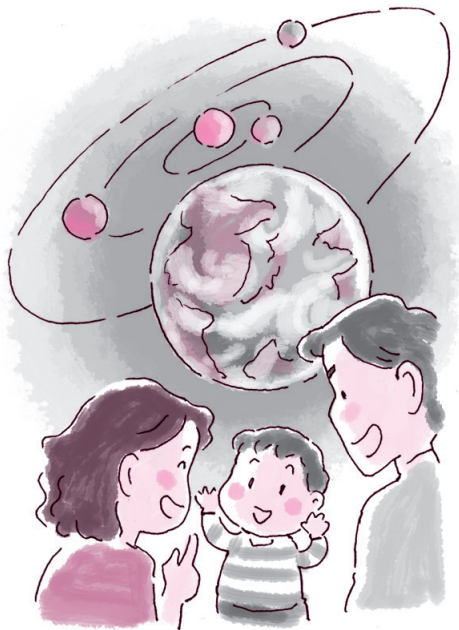
しよう。

「もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することができる完全な人である。」(ヤコブの手紙3:12)とあるように、ことばを「コントロール」できれば人生もコントロールできます。

親に対して適切なことばを使えるようになりましょう。

第 3 章

すべてはつながっている



真の愛は、家庭、社会、国家、世界、宇宙まで
連結されるのです

文鮮明先生のみ言より

「太初はひとつであられる」

「太初はひとつであられる」ということばは1951年から翌年に文先生が執筆された「原理原本」の書きはじめの部分です。

次のみ言をあわせると、文先生の宇宙観が理解できます。

「すべてのものは、

一つから多くのものにわかれ、

結局、

一つの大きなものに統合されます。

すなわち、一つからいくつかにわかれ、

そして

一つに統合されるのです。

ここでまたわかれてより大きなものになるのです」

宇宙は一点からはじまりました。百数十億年かけて数百兆の星が誕生しています。星の誕生と消滅が繰り返し広げられつつ、宇宙全体は加速度的に膨張していることがわかっていきます。

生命も1個の細胞からはじまります。人間の場合20年足らずで60兆個にまで増えます。そして1日に5千億個の細胞が新たに生まれては、死んでいきます。

「全ては一つからはじまったのだから、人間は必ず統一世界を成就できるはずだと文先生は信じておられるのです。

私たちの家族、氏族も必ず一つになれるはずだと信じていきたいものです。

霊界に行つて見てみれば、男女が一つの大きな人のように見えるのです。人々とは何でしょうか。皆さんはすべて、一つの細胞と同じです。全宇宙がすべて男女のように見えます。その間に入った人たちは、神様の細胞と同様です。一つの体になっているのです。

すべての力は授受作用によって

原子物理学によると、力は“素粒子のキャッチボール”によって伝わる事がわかっています。原子レベルから銀河にいたるまで、素粒子のキャッチボール（やりとり）によって力が生じるというのです。このような“やりとり”を原理では「授受作用」といいます。もちろんただの“やりとり”ではありません。原理講論では次のように定義されています。

「あらゆる存在をつくっている主体と対象とが、万有原力により、相対基準を造成して、よく授けよく受ければ、ここにおいて、その存在のためのすべての力、すなわち、生存と繁殖と作用などのための力を発生するのである。このような過程を通して、力を発生せしめる作用のことを授受作用という」

このみ言を逆の流れで説明したみ言が次です。

「力が存在するためには作用が必要であり、作用するためには主体と対象がなければな

らず

「力よりも作用が先です」

「作用する前に、プラスとマイナス、すなわち主体と対象がなければなりません」

つまり、どのような力や価値をつくるかの前に、やりとりできる関係性（主体と対象）がきちんできていなければならないということなのです。

主体と対象が二つあわせるので、もっと大きな力が出るのです。創造原理がそのようになっているので、小さな物質から宇宙が形成されるのです。

「主体」と「対象」

家族の中では親が「主体」で、子供が「対象」です。兄、姉が「主体」で、弟、妹が「対象」です。主体は対象に与えることによって喜びを感じ、幸せになろうとします。対象は主体から受けることによって喜びを感じ、幸せになろうとします。



主体である親を幸せにするためには、頼ることが大切です。頼るとは依存することではありません。対象である子供から相談されたり、甘えられると、何とかしてあげたくなるのが親心（主体性）です。このように親の主体性に働きかけるのです。親から何かをしてもらったら、感謝し喜んであげることです。

対象もまた「主体」的であるべきなのです。

どこに行っても、対象の立場に立って授受作用すれば、その主体圏を自分の側に引き付けることができますようになります。主体の前に三人の対象がいる場合、他の二人以上に、対象的な努力、奉仕をしたという時は、その主体が引っ張られてくるのです。

主体と対象の位置がいまいになるとその分、力がなくなります。たとえば普段一緒に生活をしていて、関係がマンネリ化している場合がそうです。母親からご飯を作ってもらっても「ありがとう」も「ごちそうさま」も言わない。主体である親の前で対象に立っていないことになります。親はそれでもつくり続けることができますが、受けた側には負債がたまり、徐々に関係が悪くなります。

これに対して、手抜きのご飯であったとしても、喜んで食べた場合は、お母さんは喜び「次は、この子の好物をつくってあげようかね」と思うようになります。

主体である親は、対象である子供に与えること自体は苦になりません。ただし「お母さんありがとう」と子供が「美」を返してはじめて、主体と対象の双方に愛や喜びが生じるのです。

「今自分は主体なのか、対象なのか」を絶えず判別できるようになると、相手との関係は発展していきます。

我々の体には、触角のようなものがあって、全部接続します。それで、見えない電波のようなものを発射して、対象を探しています。

それゆえ信仰する人の態度は、全部自分と関係していると考えなければなりません。なぜそうすべきでしょうか。

墮落によってすべての関係を失ってしまったのです。自然に対する関係、本然の人間に対する関係、神様に対する関係を、全部切断してしまったのが墮落です。切断した関係の世界を我々が再び接続させるためには、いつも自分自体が接続させ得る作用をしなければなりません。



万有原力

そもそもなぜ個々の存在（主体と対象）が授受作用をするようになっていたのでしょうか？

それはすべての存在がつながっている、つまり関係性を持っているからといえます。さらにはいえば、「万有原力」が二つのモノ同士に関係を持たせるように作用しているともいえるでしょう。

たとえば、孤島に遭難した二人は赤の他人だったとします。しかも外国人です。その二人は徐々に相手を意識し、何かのきっかけでやりとりをするようになるでしょう。

また独房に閉じ込められた囚人は、部屋の中のノミと友だちになるそうです。

自然にこのような関係性が生まれるのは、ある普遍的な力が働いているからだといえます。

「よく授け」「よく受け」

「よく」とは100%のことです。具体的には、多少大げさな態度やことば使いをするイメージがわくと思います。「なんて表面的な」と、叱られそうですが、家族に対して実際にやってみると「授受作用」のすごさがわかります。

たとえば、先ほども触れましたがご飯を作ってもらったときの感謝のリアクションなど、何かをしてもらったときにチャンスです。あるいは故郷で地震が起きた場合は「今ニュース見たけど大丈夫」と過剰なくらい心配して連絡を入れてみると、プレゼントを贈る以上に親が喜んでくれるでしょう。

「よく授け」は「完全投入」「絶対愛」という意味でしょうか。

「よく受け」は100%受け入れるということになりますから、すべてを信じて受け入れる、つまり、「絶対信仰」ともいえるでしょう。

「絶対愛」「絶対信仰」は、神様とご父母様に対してはできるでしょうが、問題は身近な人に対してできるかどうかです。



神様とご父母様に侍ることが、同じように両親にできるようになってこそ、本物だといえます。

墮落しなかったなら、自分の父母に神様のように侍れば、誰でもみな天国に行くよ
うになるのです。

すべてはつながっている

まずは原理で説かれている「個性真理体」と「連体」という二つの概念について確認
してみましょう、文先生はそれぞれ次のように説明しておられます。

「個性真理体」とは

「私たち個人というものはあるいは天から落ちた一粒の水滴であると例えることができ
ます。

いったい自分という存在は大洋とか、大きな川から比べてみた場合、何でもないんだ

けれども、しかし、その何でもない自分というものは大洋を無視しても、その川の流れ
を無視しても、自分なりの個性を持ちたいのが、私たち人間なのです。

あるものに吸収されるよりは、あるものを吸収したい、あるものの比較の中心体とな
りたいというのが人間の考え方であります。」

「連体」とは

「私たちの周りに存在するすべてのものは、想像もできないほどの複合的な力が結び
ついて生まれているのです。またその力は、密接に関連して相互につながっています。

ちっぴけな砂粒一つにも世の中の道理が入っており、空气中に浮かぶほこり一つにも
広大無辺な宇宙の調和が入っています。」

「森羅万象の被造物は、このような二重目的によって連帯し合っている一つの広大な有
機体なのである。」

「一個体を他の個体との関係から見ると、その個体を連体という。したがって連体は相
互関連性を持つ個性真理体をいう。」





以上のように「個性真理体」はとてつもなく尊貴な存在でありつつ、「連体」となっているわけですから、この二つは対の概念として理解する必要があります。

宇宙は丸く丸く回りながら関係を結ぶのです。丸くなっている個別的に存在するのではなく、全体に関連性を結んでいます。

ダイヤモンドと黒鉛

自然界で最も硬く、そして美しいダイヤモンドも、もろくて、真っ黒な黒鉛も同じ炭素原子でできていることはご存じだと思います。それではその二つは、何が違うのでしょうか？

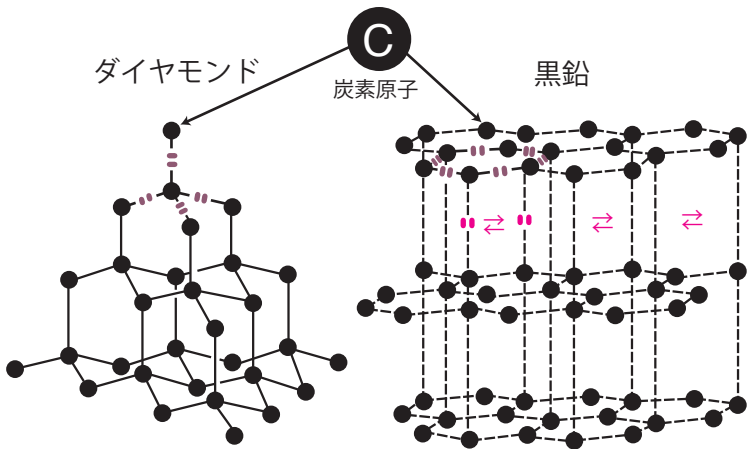
それは原子間の結合が違うのです。ダイヤモンドの共有結合は地球内部の超高温超高压の条件のなかでつくられるそうです。のんびりした環境ではダイヤモンドはできないということです。別の見方をすれば、個々の炭素原子がいくらがんばっても隣同士が多面的に、そして強くつながっていなければ、ダイヤモンドにはなれないのです。

これは家族をはじめとした人間社会でも同じことが言えるでしょう。

『世界のエリートはなぜ、この基本を大事にするのか』（戸塚隆将 朝日新聞出版）によると、世界最強の金融機関のゴールドマンサックス、同じくコンサルティングファームのマッキンゼー、そしてハーバード大学はどれもチームによる成功を重視しているそうです。

もちろん個々の優秀さはピカイチですが、利己でも利他でもなく、利チーム主義が貫かれています。「ギブ&テイク」の意識は低く、「シェア&シェア」の意識が徹底されています。

結合の違い





四大心情圏から見た連体

連体としての人間関係を考えるために、四大心情圏を見てみましょう。男性であるならば、まずは親の前では息子としての立場があり、兄の前には弟の立場（逆に弟の前に兄の立場）があり、妻の前では夫の立場があり、子供の前では父親の立場があります。これら四つの関係の中で心情や愛を学び、社会の中ではこの四つの関係のバリエーションが展開しています。

つまり、四大心情圏とは

- ① 子供の心情
- ② 兄弟の心情
- ③ 夫婦の心情

④ 父母の心情

です。

あなたの父親を見てみましょう。

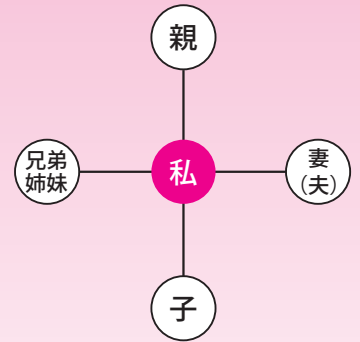
父親と両親（あなたにとっては祖父母）との関係でいうなら、父親は息子としてほんな息子だったのか。親から「いい息子を持った」と言ってもらえたのか、また「この親の子供でよかった」と感じていたのか。兄弟間ではどうなのか、「いい兄だ」「いい弟だ」と認めてもらっていたのか。夫婦関係はどうなのか、「いい夫と結婚して幸せだ」と思われているのか。子供たちの前で父親としてはどうなのか、「頼りがいのある父親」なのか。それぞれの立場で愛が育まれたのか、幸せだったのか。

とくに幼少期から青年期にかけて、親との関係は、その後の人生に決定的な影響を与えます。

父を愛の主人にしてくれるのは息子であり、夫を愛の主人にしてくれるのは妻であり、兄を愛の主人にしてくれるのは弟なのです。真の愛の主人になるためには、相対を自分よりも高め、「他のため」に生きなければなりません。

四大心情圏から見た連体としての家族

- ① 子としての幸せは ⇒ 親によって決定
- ② 兄姉としての幸せは ⇒ 弟妹によって決定
- ③ 夫としての幸せは ⇒ 妻によって決定
- ④ 親としての幸せは ⇒ 子によって決定



自然万物と人間との連体

人の体は自然万物によってできています。母親のお腹の中では、母親が食べた物から栄養をもらいます。生まれてからは食事から栄養を摂ります。お店で食材を買って、自宅で調理して食べるにしても、外食するにしても、すべての食べ物の元は自然界にあるものです。それらは、自然のなかで育ったもので、本来はすべてただです。母親が子供にお乳や食事を食べさせるのに子供からその都度お金をもらうことがないように、神様は人間のためにただで自然万物が育つ環境を与えてくださっています。水も魚も肉も野菜も果物も、きれいな空気と太陽の光も、です。

教会では十分の一条献金が大切であると教えられます。全てをただでくださる神様にせめて10%はお返ししないといけませんね。

このような自然万物を通した親なる神様の愛を、どうすればわかるのでしょうか？

たとえば同じ自然の散策でも、自然を味わおうと意図して歩くのと、ただ何か考え事

をしながら歩くのとでは、効果が全く違ってきます。

食事をするときは、「ありがとうございます」「いただきます」と念じつつ、丁寧に、よく噛んで「いただく」「味わう」ようにすると、食材の良し悪しに関わらず、脳も心も体も喜んで食べることができるはずです。忙しい毎日のなかで、せめて1日に1回は「ながら食い」をやめて、食事にだけ集中してみましょう。

このように「よく受けよう」という意図で対象の位置に自分を置いてみれば、神様の愛、親の愛をより感じる事がで



鯛も一人は旨からず



きるようになります。

「ごめんさない」「ありがとう」と言っことのできる心、水を見て、山野を見つめて、野原を見つめて、三千里の山川、さらには大地球星を見つめて、「ありがとう！」と言っことができる心、神様の前に有難いと考え、環境に有難いと考え、不平を言わないで侍って暮らすことができる、このような主人の心を持ちなさいということです。

仏教では生き物の殺生を禁じていますが、それは「仏の命」を殺すことになるからです。原理では自然万物は人間のために与えられた「神の愛」であると説いています。ですからどんなものも食べてはいけないということはありません。ただし、食べるときには、自分のために命をささげてくれた万物に対して、感謝の祈りをしなければなりません。そして、その万物が犠牲になった甲斐のある、人間としての生き方をすべきだということです。

神様の愛の最も高い対象としてつくられた人間は、すべての万物をみな食べたり、持ったりすることのできる立場にいるのです。このすべてのものをみな食べて、持ち

ますが、これらをつくられた神様の真の愛の心をもって食べ、持たなければなりません。

人間のために自らを犠牲にする万物は、子供のために自分を犠牲にできる母親に似ています。「母なる大地」ということばの意味をよくかみしめたいものです。

人間は胎児の時、お母さんから供給される栄養素を受けただけでなく、愛を供給されたことを忘れてはならないでしょう。

それと同じように、地上で暮らしている人間たちも、宇宙（自然）から物質的な栄養を供給されているだけでなく、生命の本質的要素である愛を神様から供給されているのです。

浪費は罪である

さらに、こうして与えられた万物は必要最低限消費し、無駄使いたないようにと文先生はきびしくおっしゃっています。「浪費は罪」というみ言もあります。



トイレットペーパーに関して、こんなエピソードがあります。

二世たちがマグロ釣りの訓練を受けているとき、スケジュールが忙しいので、トイレットペーパーを勢いよく引つ張って長く使うと、それをご覧になって文先生は大変心配されました。

「あなたたちがこんな風にトイレットペーパーをむやみに使うとあなたたちの子孫たちが乞食になる」とおっしゃったそうです。(『原理に関するみ言の証』 史吉子著)

万物を浪費するということは、地球上の「連体」を断ち切ることになります。

国際連合食糧農業機関の2011年の調査によると、世界への食糧援助量が390万トンだったのに対して、日本国内で捨てられた食糧はそれをはるかに上回る500万トンから800万トンです。つまり、世界の食糧が不足で飢餓問題が生じているのではなく、食糧が「余っている所」から「不足している所」へ流れていないことが問題なのです。

最近、「富の偏重」「格差社会」と言われるようになってきましたが、文先生のように万物を真に大切にすれば、人は喜んで節約するようになり、必要な所に必要な分だけ流れるようになる、すなわち「平準化社会」がつくられていくのだと思います。

そのためには、宇宙が授受作用によってつながっていて、一つであるという意識を持つことが大切です。

原理的に見る時、浪費は罪です。私たちは生まれる時から一定量の消耗品を使うようになっていきます。それ以上使えば罪です。

空気も水も、常に水平になろうとするのがその生き方です。

世界の食料援助料



2011年
390万トン

日本の食料ロス



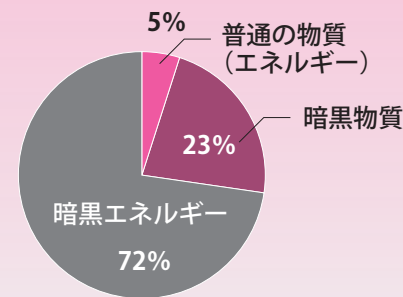
年間
500~800万トン

ダークエネルギー、ダークマターということばをご存じでしょうか。全宇宙のエネルギーを100とすると、現代物理学で説明できているのは5%程度に過ぎず、95%は存在しているのは間違いないが、よくわからないのでダークな存在なのだそうです。

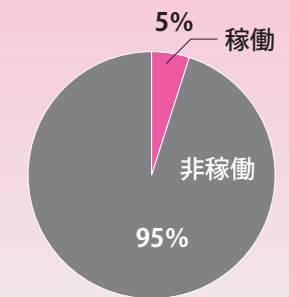
脳研究でも同様のことが言われています。これまで知られている脳の働きに関するエネルギー消費を全部足し合わせても全消費量の5%程度にとどまることがわかっているのです。残り95%のエネルギーが何に使われているのかわからないので、「脳のダークエネルギー」と呼ばれています。

5%理論

宇宙の総エネルギー



脳のエネルギー



つまり95%のおかげで5%があると考えるべきだということです。

人間関係も同じではないでしょうか？

自分がいくら頑張ってきたといっても、誕生から成人までの衣食住すべて親がただでくれたものです。そもそも自然万物そのものがただで提供されています。そのおかげで自分なりの「頑張り」ができるにすぎないのです。

さらに、先祖の恩も忘れてはいけません。

自分の頑張りはいずれ5%、それも周りの95%あつての話です。

そのように考えてみると、まずは自分の身の回りの人や万物に感謝するところから、自分の幸せははじまるといえるのではないのでしょうか。

「自分は一人で頑張ってきたのに、周囲から理解されていない」とか、「こんな人生は親や環境のせい」などと不平不満をいうのは無知のゆえなのです。



「私は孝子なのに、私は忠臣なのに、なぜわかってくれないのか」と言って抵抗する人はその峠から後退する人です。歩めば歩むほど孝の道理が残っていて、歩めば歩むほど忠の道理が残っているということを発見し、その孝を果たすことを自らの生活哲学として生きる人であってこそ、天の孝子になり、忠臣になるということを、皆さんは知らなければなりません。

宗教の本質は感謝の生活

文先生は、宗教の本質は感謝することだとおっしゃっています。

「宗教の本質は、感謝することです。

それでサタンを防御するための一番重要で緊急な要件を挙げなさいといえば、『感謝することだ』というのです。

この罪悪の世の中にいる私を、なにがそこから移動させないようにしているのでしょうか。それは不平不満です。」

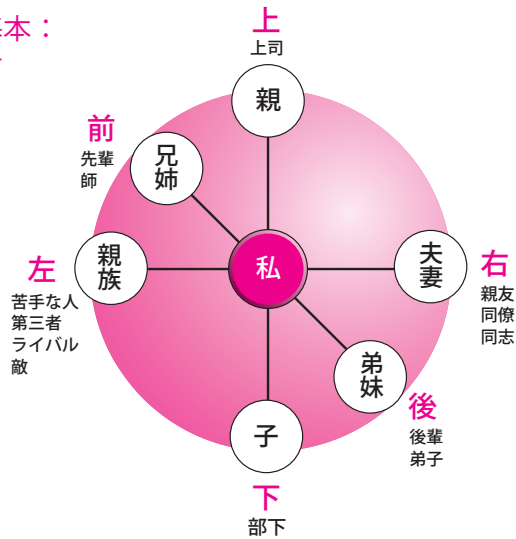
全てのものは単独では存在も発展もできません。個々の授受作用による関係性のなかでこそ存在・発展できるようにつくられています。

原子物理学では、最終的にいかなる「物」も見つけ出すことはなく、常に相互作用をもって終わることがわかっています。

創造原理がこのように、相互の授受作用の関係で宇宙が貫かれていると説いているのは、結局は愛のためであると文先生はおっしゃっています。

このことをはつきりと知ること、私の生活が180度変わっていきます。

人間関係の基本：
上下前後左右





- 私の身の回りの人やモノはすべて私のために存在していること
- 同時に私は身の回りのすべての人やモノのために存在していること

感謝し、感謝される生き方、関係づくりができるようになることが宗教の本質であり、目的だといえます。

人の心に合わせることができ、人と和合することができなければなりません。神様に待てる訓練の中で、それ以上早い訓練はありません。

神様に似ようとすれば、世界のあらゆる人たちを神様のように思わなければなりません。神様の息子、娘であり、神様の兄弟であり、神様の夫婦であり、神様の父母と思わなければならないのです。

神様にそのような概念があるのと同じように、世界の人たちをすべて自分の懐に抱いても苦痛を感じず、一つにしようと思わなければなりません。それで、神様の代身者になれば、天の国が私の国であり、神様が私の神様になるのです。

驕慢（おごり）はサタンがする行動です。サタンは下がっていく所へは下りていけないのです。

驕慢は怨讐です。驕慢と固執はサタンの本職です。サタンの要素です。それで私たちは、驕慢の代わりに謙遜、固執の代わりに和合をしなければなりません。

愛は一つになる力

個性真理体と連体を対で考えることで、日常生活のさまざまなトラブルを解決できます。

つまり、私は個性真理体でありながら孤立した存在ではなく、家族や社会や自然万物と連体しあった存在であるのとらえるのです。よくありがちなのが、「私は正しい」から相手も認めてくれるはずだと思ひ込み、小は夫婦喧嘩、中は職場でのトラブル、大は戦争に至るまで、この世は争いが絶えることはありません。

その「私は正しい」の究極は宗教戦争でしょう。自分の信じる宗教、神が最高であって、それ以外は間違っていると、21世紀に入って、ますます泥沼にはまりこんでいます。



神様が「正しい人」に働かれるのでしたら、宗教戦争など起こるはずがありません。

バベンバ族（南アフリカ）のすてきな儀式をご紹介します。

南アフリカのバベンバ族は、
部族の誰かが不正をはたらいたり
無責任な行動をとったとき、

村の真ん中に一人で座らなければならないそうです。
もちろん、逃げられないような手だてが講じられて。

村人はみんな仕事をやめ、集まって輪になり、
その人を囲み、子どもも含めた全員が一人ひとり、
その人が過去にした良いことについて話しはじめます。

その人について思い出せることすべてが、詳しく語られ

その人の長所、善行、親切な行為などのすべてを、
輪になった一人ひとりが、詳しく語るのだそうです。

村人たちは、これ以上ない誠実さと愛を込めて話し
誇張もでっ上げもゆるされず不誠実な態度や、
皮肉な態度をとる人もいないそうです。

その人を共同体のメンバーとして
いかに尊敬しているか村人全員が話し終えるまで、
この儀式は続き、それは数日間に及ぶこともあるそうです。
最後に輪が崩されると、その人を部族に
再び迎え入れるお祝いが始まるのだそうです。

この儀式は、一体感を取り戻すことと、
ゆるしがあるだけで輪の真ん中にいる人も、
輪になっている人々も、ゆるすことによって、





過去や恐れに満ちた未来を手放せるのだと、思い出すのです。輪の中心にいる人は、悪人とレッテルを貼られて部族から追放されたりはしません。

その代わり、一人ひとりが自分のなかにある愛を思い出し、周りのすべての人と一体になるのです。

『ゆるすということ』 ジェラルド・G・ジャンポルスキー（サンマーク出版）

統一の基盤の上においてのみ平和があり、幸福があり、自由があり、希望があります。

個々が正しいか正しくないかも大事ですが、互いに一つになっているのかどうかに価値がある、と考えてみればどうでしょうか？

なぜなら神様は愛の本体であり、愛は一つにしようとして働く力だからです。愛のない真理は真理とはいえないのです。

何か仕事をするときに、自分個人が「頑張る」とともに、相手のために話を聞いたり、報連相（報告・連絡・相談）したり、譲ることに「頑張る」。この二つの頑張りが調和し、

お互いが一つになったときに、そこに神様が働き、愛と力があふれてくるはずですよ。そのとき、あなたはダイヤモンドのように強く美しい存在になるのです。

神様が好まれる人は、譲歩する人です。譲歩とは何度も相手に従っていくことです。その人が「しよう」と言つとおりには、何度も従っていくことです。何度も従って行けば回るようになり、回っていれば、最終的に自分がその位置を占領するようになるのです。結局はその人すべてのものを得ることができるとはなりません。

■この章のまとめ

心と心、心と体、体と万物は通じています。つまり人と人、人と自然や宇宙すべてはつながっているということです。

そして授受作用によって無限に発展するようになってるのが創造原理です。

逆にこのつながりを絶って、授受作用ができなくなると人も宇宙も破滅します。

親との授受作用のやり方を工夫してみましょう。どうすれば親と一つになれるのかがゴールになります。

第 4 章

「流れ」をつくる



自然の中には愛の交響曲が流れています

文鮮明先生のみ言より



個々の絶え間ない授受作用は、絶え間ない「流れ」をつくります。「流れ」はより大きくになると循環、回転作用となります。自然、宇宙は巨大な循環・回転運動によって発展しています。

全宇宙が均衡をなして運行しているのです。天運というのは、このように受けて返す巨大な天宙的な流れです。その中で愛も流れ、空気も流れ、水も流れ、光も流れます。しかし、その流れは回りまわって、再び円形に戻っていくのです。

「流れ」と「詰まり」

「流れ」が滞ると災害が起きます。

人体は適切な「流れ」の中で自然治癒力が働き、健康な状態を維持しています。血流が悪いと末端まで栄養や酸素が届かないし、自律神経が不調だと体全体のバランスが崩れます。気の「流れ」が悪くなると病気の原因になります。

生活習慣病の原因は食べ過ぎと運動不足が主な原因です。とくに食べ過ぎは体に余分なものがたまって代謝を悪くし、全体の「流れ」を阻害してしまいます。

部屋の中にも余分なモノが増えてくると、ドヨンとした重たい雰囲気になり、運気の「流れ」が悪くなります。片づけられない家からは犯罪が生まれやすいと警察は言っています。

人間関係においては、ことばの「流れ」が悪いと問題が生じやすくなります。言い過ぎは相手の心に傷を与え、ことば不足の場合は誤解が生じます。

また感謝と謝罪のことばは、タイミングが合わない詰まりの元になります。「ストレスが健康に悪い」と言いますが、生きていけば自然から重力や暑さ、寒さなどのストレスを受けていますし、生活していれば周囲の環境や人からストレスは受けるものであって、一定のストレスは必要なものです。問題なのはストレスが心身にたまってしまうことです。

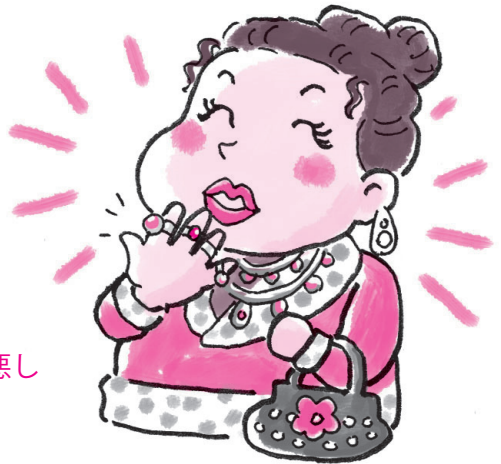
体には自然治癒力が備わり、自然には恒常性（ホメオスタシス：バランスを維持しようとする力）というシステムが機能しています。何が起きても自然（体そのもの）が自然の一部（はうまくできるようになっていく）という話です。それがうまくいかないときは、

「流れ」がうまくいってないと判断すればいいのです。

人間関係も本来は「自然に」うまくいくものではないでしょうか？

それができないのは人が不自然なこと、非原理的なことをやって、流れが詰まってしまいうからでしょう。ですから、日ごろから身近な人間関係や万物との間で詰まりをとる作業をしつかりしておけば、問題や悩みは自ずと解決されていくはずですよ。

「過ぎたるは及ばざるがごとし」ということばがありますが、詰まりは余分なものによって生じるため、この講座では「過ぎたる（余分なもの）は及ばざるより悪し」と考えます。



過ぎたるは
及ばざるより悪し

「病気」と「墮落」の相似性

文先生は病気に関して次のようにおっしゃっています。

「人間の病気は授受のバランスが崩れ、正常な循環運動が停止した状態」

また人類は墮落によって、いわば病気になってしまったわけですが、原理講論ではこの点を、

「墮落というのは、人間と神との授受の関係が切れることによって一体となれず、サタンと授受の関係を結び、それと一体となったことを意味する……キリスト教は、愛と犠牲により、イエスを中心として、人間同士がお互いに横的な授受の回路を回復させることによって、神との縦的な授受の回路を復帰させようとする愛の宗教である」と説明しています。



「親復帰」とは？

以上のみ言の観点からすると、親復帰とは親を伝道するという意味以上に、私が氏族のメシヤとして家族間の授受の回路を回復することによって、失われた本然の親子関係（位置と状態）を復帰することにあるといえるでしょう。

そのためにはキリスト教では「愛と犠牲」が説かれ、文先生は「父母の心情 僕の体」を教えてくださいます。

つまり氏族のメシヤ（父母）になるということは、「父母の心情を持ち、僕のように歩む」ということになります。何かにつけて親のせいをしたり、上から目線で接したりする態度は、氏族のメシヤとは真逆といえます。

イエス様は神様の前で僕の僕となり、十字架を背負いながら死んでいきました。義人とは、国のために僕の僕のような悲惨な立場で死ぬ人のことをいいます。僕の僕の立場でも、感謝して父母のために生きようという時、その人には孝子という名称がつきます。

流れを良くするポイント

1 スピード感（早めに、速く）

運動エネルギーの公式 $f \parallel 1/2 m v^2$ を見ると、速度 v の二乗というわけですから、質量 m も大事だけれども、速度を少し上げるだけでより大きなエネルギーが生じることがわかります。

そこでより大きな力、結果を作り出すためには、「何か」よりも、「早く、速く」にしっかりと取り組んだほうが、より効果がでると考えてみます。

親や上司から何か仕事を頼まれたとします。その際、次のルールを守ると

流れる水は腐らず





より大きな成果が生まれます。

・即時着手（ただし作業は丁寧）

・即日か遅くても3日以内に成果もしくは中間の報連相

親から着信があったらすぐに電話しましょう。食べ物が届いたら、その日のうちに「届いたよ。いつもありがとう」と電話かメールをいれましょう。

文先生も「早く！早く！（速く！速く！）」が口癖でしたね。

2 「ありがとう」と「ごめんなさい」

この二つのことばは、人と人との「流れ」をよくします。

「ありがとう」と「ごめんなさい」を漢字にすると「感謝」と「謝罪」。「謝」という字が共通しています。人は本当にありがたいと思ったときと、本当に悪かったと思うときは、自ずと土下座をし、手を合わせる格好をします。そして、もう一つ同じ格好をするのが祈りです。

つまり、「ありがとう」と「ごめんなさい」は究極では同じ心情になった、祈りの心

とでも言えればいいでしょうか。

そこですまず自分の心身の流れをよくします。

1日の終わりに、自分の四肢五体に「今日も頑張ってくれて、ありがとう」と言いながら、丁寧に洗います。手足や口が悪いことをしたら、その手足や口に「ごめんなさい」とことばにしてみましよう。

次に父との「流れ」、母との「流れ」、付随して兄弟との「流れ」を改善します。「流れ」ができてくるかのチェックはお互いに「ありがとう」「ごめんなさい」が言い合えれば「流れ」はいいと診断できます。自分から言えなければならぬし、相手からも言ってもらえなければいけないでしょう。

この二つのことばは相手を高め、自分を低くします。主体と対象、高い所と低い所ができればエネルギーは必ず流れるようになっていきます。

逆に、相手を低めることで自分を高めようとしても流れは悪くなります。

低い位置に行くようになれば、すべてのものが自然に供給されるようになっていきます。空気と水も満たされ、天運も入っていくようになるので、このくぼみが埋められるのです。

3 不要なモノを捨てる

- 不要（不用）なモノ（＝本来そこにあってはならないモノ）とは
1. 使用していないモノ
 2. それがあっても元気が出ないモノ
 3. ホコリや汚れ
 4. 罪

新しいモノを買うことは楽しいのですが、捨てることは楽しくありません。ですからほっておくと、入る方が多く、出る方が少なくなるので、不要なモノが蓄積されていきます。

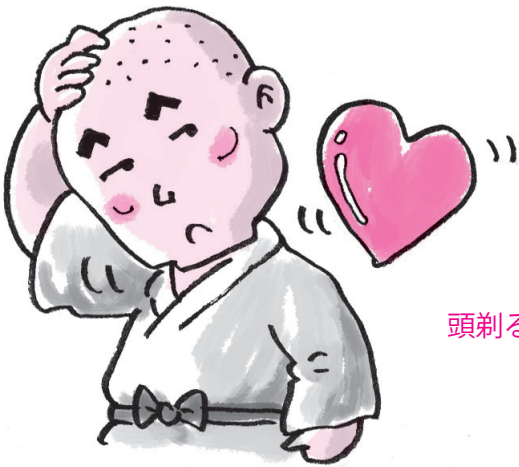
捨てることを習慣化しましょう。

人間の細胞は毎日約5、000億個が役目を終えて自然死し、そのぶん新たにつくられていることはすでに触れました。新たに取り入れることと捨てることの繰り返しのおかげに、健康が維持されているのです。

4 入口と出口を押さえる

部屋の空気を入れ換えるために窓を開けると、一瞬風が入ってきますが、その後は風が入ってはきませんね。ではどうしたらいいのでしょうか？ 反対側のドアや窓を開ければいいですね。こうしておけば絶えず風が流れ続けます。

生きるためにはご飯を食べなければいけません、何を食るかということばかり考えて、



頭剃るより心を剃れ

排泄を考えないと、便秘になって病気になる、結局何を食べてもおいしく感じられなくなりですね。体(とくに腸)にいいかどうか、つまり出口を考えて、何を食べるかを決めている人は、みなさん健康です。

さらに口と肛門をきれいに、大切に扱うことで完璧になるでしょう。

男性と女性の生殖器は、どこにありますか。それは一番安全地域、一番の安全地帯であると同時に一番汚い所です。それを見れば神様は本当に知恵の王様です。人間の世の中に、「愛はそのような汚いものも支配する」ということを教えてくれるのです。肛門の近い箇所にあります。小便が出る道と別の道が同じなのです。

風水では玄関とトイレ・台所を掃除することがいいと言われています。玄関が入口、トイレ・台所が出口にあたりますから、ここがいつもすっきりしていれば風水の流れもいいはずです。

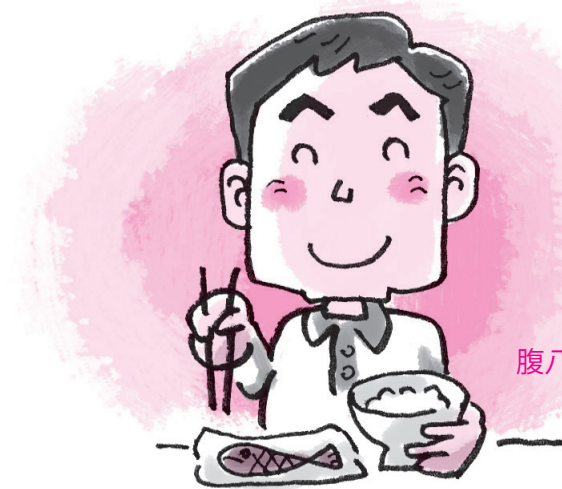
この講座では素手で掃除(とくにトイレ掃除)をすることを薦めています。この方法は「日本を美しくする会」の会長であり、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんから学んだことです。鍵山先生の名言をご紹介します。

人間の心は、そう簡単に磨けるものではありません。

ましてや、心を取り出して

磨くことなどということはできません。

心を磨くには、とりあえず、



腹八分目に医者いらず



目の前に見える物を
磨ききれいにすることです。

とくに、人のいやがる
トイレをきれいにすると、
心も美しくなる。

人は、いつも見ているものに
心も似てきます。

心を解放しようとするならば、ごみ箱までも自分の心に合わないものがなく、すべて「良い」と言っていることができる立場にならなければなりません。

食べ物はどうでしょうか？ よくかんで食べれば、おいしく感じることができ、吸収もされやすくなり、お通じもよくなるでしょう。この場合、「口」が入口、「おしり」が

出口です。

食事は入口の主管、トイレ掃除は出口の主管と考えてみることもできますね。

自分の一族と親戚の家を訪ね、血と汗と涙で掃除しなければなりません。
水で掃除するではありません。血と汗と涙をもって清まるようになってい
ます。その家庭に入り、血と汗と涙を流さずしては復帰ができません。

すべてのものを漂白して洗濯し、言い換えれば、蕩滅して復帰しなければなら
ないのです。それをせずに、墮落世界で所有していた習慣性や罪悪性が残っている限り、
天との関係を結ぶことはできないのです。

両親は「良神」

親子間の流れを良くするにはどうしたらいいでしょうか。

両親との関係を改善するためには、失礼かもしれませんが、親を「お客様」とみなす
ところからはじめます。なぜなら親との関係がよければ、物心両面の恩恵をいただける、



あなたにとって大切なお客様になるからです。

あるいは親が「主人」、自分は「僕」の立場でもいいでしょう。親だと思っから依存や甘えが出てしまいます。

「父母の心情 僕の体」という、文先生のみ言がありますが、この講座では次のような意味で理解します。

母親が子供のために尽くす姿はまさに僕のようなものです。毎日食事をつくり、着る物を準備し、病気になったらすぐに病院に連れて行く。自分の時間はほとんどありません。しかし、子供が成人するまでの間、僕の体で子供に仕えた結果、母親は親なる神様の心情を復帰するのです。

そのような偉大な親に尽くすには、やはり「父母の心情 僕の体」が王道といえるでしょう。

子供は親の前には対象の位置になります、意識次第で主体にもなり得るのです。

親が「原因」で子供は「結果」だとすると、「親のせい自分はこのようになった」と親の悪口を言いたくなります。それは間違っているわけではないでしょう。しかし、いくら

自分が正しいと言ったところで、幸せにはなれませんね。

こうして親を低く見なし、そのように接していると、その結果である自分も低く扱われることになってしまいます。逆に、実態はともかく親を高めた分、自分も高められます。

そこでこの講座では子供が原因の立場で、親を結果の立場と考えることにします。アダム家庭の復帰摂理を思い出してください。あの話はいわば、親の失敗を子供が償うことで、親を失敗しなかった立場にしてあげる親孝行の話です。

そこで、「父母の心情 僕の体」を具体的に実践する「ノウハウ」を紹介しましょう。

1 毎日父親と母親に挨拶（敬拝）をすること（写真はあってもなくても構いません）

祭壇に向かって、朝であれば「お父さん おはようございます。ありがとうございます」と三回唱えながら、丁寧に敬拝を父親に捧げます。額を床に直接つけるままで頭を下げます。

次に母親に同様に捧げます。

実体でできなくても構いません。でもいつかは韓流ドラマのように直接できるよ





うになれたらいいですね。

親の立場からすると子供から敬拝を受けると、「足りない親なのに申し訳ないことだ、もっと立派になって子供から敬拝されるに相応しい親になろう」という本性が湧いてきます。

これは「一が十をつくる」という原理でもありません。

また、毎日額を床につけることで自分の「傲慢さ」を「アース」させる効果があります。

皆さんが四肢を用いて敬礼することは、皆さんが四位基台の上に立っていることを意味しています。正しい主体、対象関係を表しています。つまり敬礼することにより、皆さんは高いところから低いところへ移動しますが、これは天と地の縦的關係を象徴しているからです。

緊張せずに自然の姿勢で立ち、一方の足をもう一方の足の前に出します。右足は男を象徴し、左足は女を象徴します。右足が左足よりも少し前に出します。これも男が主体で、女が対象である関係を象徴しています。

敬礼することによって体のあらゆる部分が一箇所に近づいていきます。これは四位基台がどのように一つになるかを表しているのですね。

頭は神様を象徴し、両腕は男と女、そしてその関係を表します。両足は地上を代表します。だから私たちが両腕を上げて頭に触れる時、これは主体と対象が互いに一つになり、さらに神様とも一つになり、それから下がってきて地上と一つになることを示しています。

理想的には夫婦は神に敬礼し、そして互いに敬礼し合います。それから男が座って、女が男に敬礼します。その後にもに並んで座ります。こうすることによって女は墮落のエバにならないといっていることになるし、男は墮落のアダムにならないことを言っています。これが朝の敬礼式、とくにお辞儀のやり方についての意味です。

その後子供たちがやってきて同様の敬礼をします。両親は親の位置に座して、彼らのお辞儀を受けます。言い換えれば子供たちは自分の親と神様への関係を表明するということです。

2 親のことを知ること



幼少期、青年期、結婚、仕事など。父親を一人の神の子として神様がどのような見つけているのか、愛してきたのかに気づくことができます。（「四大心情圏と連体」参照）

自分のことを理解してもらうためには相手のことを理解しようとするのが先決です。「相手が受け止めてくれれば自分も……」と考えるのは、自分が正しい、相手よりも上だと見つめる視点ですが、「まず与えて、そのあと受ける」という授受作用の原理に反しています。

また別の視点で見ると、相手次第で自分が変わるということになりますから、相手との関係からみれば、自分は相手の下だと無意識のうちに認めていることになります。これは相手に屈したくないと思いつつも、実は相手の奴隷状態にあることになり、矛盾した状態です。

これでは結局お互い不幸が続くだけです。

私が人を屈服させる方法は闘って勝とうとするのではなく、その人のために父母の立場でまず考えてあげることです。

3 親のいうことはお客様のいとは

親のことばに反発の心が生じたとしても、まずは「はい、そうですね」と受け止めましょう。相手は大切なお客様（ゲスト）です。どんな理不尽なことを要求されても、お客様だと思えば、対応が違ってくるはずですよ。

4 親に「ありがとう」「ごめん」といえるようになること

講座では毎日、「ありがとう」のことばを自分の年齢分以上、思いが伴わなくても、口ぐせにすることを目標にしています。

また「さっきは親にひどい態度をとったな」と思ったら、敬拝のときに「ごめんなさい」と言えれば、すっきりします。

この二つのことばを言いそびれると、詰まり（負債）が生じます。

5 親のモノを丁寧に扱うこと

間接的ですが、衣類や履物、食器など丁寧に触れるようにすると親への気持ちが整ってきます。万物とその主人はつながっているからです。



親との間に詰まりはないか？ こびりついてもう取ることもあきらめてしまった恨み。あなたの親に対しての、そして、親があなたに対しての。

詰まりが取れて流れが良くなれば、神の愛が流れやすくなり、本然の親子の関係に近づいていくでしょう。そしてある時に、親は私だけの「マイ神様」であり、ありがたい

「良神」であることに気づくでしょう。

またその時に親の目には、あなたは本当に「神の子」であり、自分たちのために遣わされた「小さな神様」であると感謝するでしょう。

こうして本然の親子関係に近づいた分、神様と私も近づくことになります。

愛はどこから出てくるのでしょうか。

私から出てくるのではなく、相对から出てくるのです。

相对から出てくるので、私が頭を下げて、相对のために生きなければなりません。

極めて高貴なものが私を訪ねてきますが、それを受けるには、「ため」に生きるべきだという「ために生きる哲学」を成就しなければなりません。

高い所が上がって心と体を一つにできる道はありません。踏まれなければなりません。

真の愛の主人になるためには相对を自分よりも高め、「他のために」生きなければなりません。

息子、娘は、その父母を、神様の代わりとして真のお父様と真のお母さまよりも素晴らしい父母として侍らなければなりません。

そのようにして、真の父母に敬拝する前に、先に自分の父と母に敬拝できる家庭にならなければなりません。家庭生活の中で神様に代わるのが自らの父母です。ですから四大心情圏と三大王権は一つの家庭でなさなければなりません。

神様は真の愛の本体なので、真の愛と連結されればすべてが同じ体になります。

父母は神様に代わる生きた神様であり、夫と妻はお互いにもう片方の神様であり、息子、娘はまた一つの小さな神様です。



第5章

証し…取り戻した絆



愛は、与えれば与えるほど多く返ってきます

お金は、いくら良いものだといってもあげられなくなり、権力も、いくら魅力的でも使えばすり減ってしまいます。しかし愛は、与えれば与えるほど無限に通じるようになっていきます。

文鮮明先生のみ言より

■この章のまとめ

主体と対象の間でことばや物質が自然に「流れ」ているとき、すなわち通じているときは物事が順調に進んでいるはずだ。

逆に「詰まり」によって「流れ」が悪くなるとトラブルが発生します。

授受作用の工夫によって、親子間でもいい「流れ」をつくるようにしましょう。

そうすれば神様の愛が自然に流れるようになります。

共産党員の両親から「教会のおかげで成長したな」と認められて

(30歳 男性 北海道出身)

母を殺したいと思うほどに

私の以前の親子関係、家族関係は最悪でした。私は高校卒業と同時に専門学校へ行くために北海道から東京へ上京しましたが、その間実家を出るまでの19年間、両親はほとんど夫婦仲の良かった試しがありませんでした。

躁鬱状態そううつで、常に情緒不安定な母が、たいてい父に対してケンカを吹っ掛けます。すると父親は段々と怒りはじめ、最終的に距離を置いて冷戦状態へ突入するという日常でした。私は自己中で理不尽な母親が嫌いで、『いつか殺してやる』と思うこともしばしばだったのです。

教会に導かれてから、そんな自分の心の内にある親への恨みを少しずつ実感するようになり、心情を整理しようとしつつも、なかなか親を愛せない、心情的に転換されない日々が続いていました。

そこに追い打ちをかけるような出来事がありました。2012年の2月に母がネットで私のことを調べ、私が統一教会で信仰していることを知り、ヒステリーを起こし、『貴様らの悪事は子々孫々まで償わせてやる。首洗って待つが良い。縁を切る』という、かなり激しい文面の

メールを送ってきたのです。電話越しに暴言を吐かれることや、無視されることもありました。

私と母の関係には目に見えて亀裂が入り、私自身もより一層母に情がいかなくなりました。加えて両親は共産党員なので、拉致監禁され強制改宗されることを警戒することもあり、物理的にも親と距離を取るようになりました。

講座で学んだ親孝行を実践

そんな中、2013年に初めて親孝行講座に参加しました。そこで実感したのが『親に対策を取るばかりでなく、孝行して復帰することの大切さ』というものでした。講座で学んだ取り組みを開始し、2014年の3月に、約2年半ぶりに帰省することを決意しました。

具体的な取り組みは以下の内容です

- ・ 両親、先祖、霊の子などに対する敬拝
- ・ 両親、中心者への10日に一度のハガキ
- ・ 毎日『ありがとう』を自分の年齢分唱える
- ・ 物事にすぐ着手する

それから約1年間講座の取り組みを継続しつつ、実家に三度帰省をしましたが、帰省の都度たくさんのお恩恵を受け、結果両親との関係も改善していき、のみならず親族との関係も深めて

いくことができました。

お前の方がよっぽど大人だよ

まず一番大きかったのは、共産党員の父が私のことを全面的に認めてくれ、今後の自分の動きについてのすべてを承認してもらえようになったことです。

信仰的な面においては、2015年の正月の帰省で、祝福式に参加すること、将来教会の公職者として勤めるつもりでいること、将来の結婚費用の負担（口約束ではありませんが）を約束してもらいました。

また心情面においては、父からの肯定的なことばをたくさんもらえるようになりました。

『お前が集団の中で成長したことは認めるし信じてもいる』『この前は大人げない態度でスマンな！この歳になってもまだまだ修行が足りないな。お前の方がよっぽど大人だよ』等々の内容です。以前から何度か『お前は成長したな』とは言われていましたが、その成長が教会を通してだということは、少しずつ父の中でつながっていている様子です。

母との関係においても、未だ良い時と悪い時の波はあるものの、以前に比べると善の授受作用ができる頻度が増え、10日に一度ハガキを送ると、本人から時折『ハガキありがとう』というお礼のメールが来るようになりました。

母方の叔母との関係も、今まではほとんどまったく接点がなかったところから、正月の帰省を通して一対一でじっくりと授受作用する機会が与えられる中で、叔母も『○○くんも大人だからね』と私のことを信頼してくれ、母方の家系の赤裸々な事情を話してくれました。後ほど『立派な青年になり、大人になった○○くんが、一回り大きくなって見えましたよ！』とメールももらいました。

神様の心情で愛情を注げるように

また、私の心情面もとてもアベル的に転換されていきました。

まず両親・親族との関係においては、自分の心が『対策』から『親孝行』へシフトしてきたことにより、今まで極力伏せていた自分の現



状・これからの展望を、可能な限り率直に話せるようになり、気負わず、自然体で振る舞えるようになってきました。そして両親・親族の心情や事情を理解する中で、『これが心の傷だったんだな。辛かったんだらうな』と、神様の視点から見つめ、少しずつ愛情が注げるようになってきました。

普段の生活圏においては、毎日様々な場面で、自分の年齢分の回数『ありがとう、感謝』を唱えることで、心が穏やかになっていきました。以前は自分に自信がなく、マイナス思考で、心情が上がったり下がったり不安定だったのですが、心情の波もかなり少なくなりました。また、血気怒気に走ることもしばしばだったのですが、思わず心情がカイン的になりそうなシチュエーションでも、無意識に『ありがとう』と唱え、カイン的な情をそれ以上膨らませないようにコントロールできるようになりました。

兄弟姉妹との関係においては、以前より壁がなくなり、慕わしい気持ちで接することが増えました。とくに姉妹との関係は大きく、今までは母との関係が様々に影響して、姉妹と接するとき、とてもギクシャクしていたのですが、自然に信頼関係が結べるようになりました。

責任分担（教育センターのアドバイザー）においては、心情の波が少なくなった分、ゲストのことをより深く考えてあげることができ、集中してゲストに投入できるようになりました。

殺意までいただいた母に10日に一度のハガキ

（33歳 女性 福島県出身）

母に対する不満が次々と

私の両親は共働きで母はいつも忙しい人でした。父は酒、煙草、ギャンブルが好きで「お父さんみたいな人とは結婚しない方がいい」と母はよく言いました。

小さいころから父の愚痴を聞いていたので私は父が好きではありませんでした。

統一原理を学んでから、子供は母親を通して父親を知ることを知り、母から聞く愚痴で私は父が好きではなかったのだと思います。

また家庭は女性（母親）の役割が重要ということも知りました。

原理を学んでいくほど、小さいころからの母に対する不満が次々と出てきました。

私は母を責めてみ言で裁きました。殺意をいただいたこともありました。母との関係は悪くなりお互い連絡をしなくなりました。

ハガキを書きはじめて変化が

親孝行講座の中で親子関係修復のために、親に毎日ハガキを書くという内容がありました。

また、

「もし明日死ぬとしたら、地上でやり残したことは何か？」
 ということを考える時間がありました。

私は、母親にみ言を伝えられていないことが一番後悔すると思いました。
 母に対して葛藤はありますが、それでも母にはいつか原理を知ってもらって、わかり合いた
 いと思う気持ちがあるので親子関係を修復しなければいけないと思いました。

ハガキを書くことだったら私でもできるかもしれないし、お父様のみ言にも「10日に1回手
 紙を書きなさい」

とあるので、10日に1回ハガキを書いてみようと思いました。

親の写真に毎日敬拝するという内容もありましたが、これは当初毎日続けることができませ
 んでした。親への感謝の気持ちや敬意が足りなかったからだと思います。

ハガキを書きはじめてから私自身心情の変化がありました。

どのようなハガキが届いたら喜んでくれるか、母は何が嬉しいのか、母の気持ちをよく考え
 るようになったのです。今まで母の気持ちをこんなに考えたことはありませんでした。

ハガキの返事は期待しないで10日に1回書き続けました。

子供だからといって自分中心だったことや、母への関心や感謝が足りなかったことを反省し

ました。

親孝行という何かをプレゼントしたり旅行に行くことを考えていましたが、お金をかけて
 することばかりではなく、まめに連絡をしたり感謝の気持ちを伝えたりして、母の心が喜ぶこ
 とをしてあげたいと思うようになりました。

ハガキがきっかけで電話もするようになり

ハガキを書きはじめて3回目位に母から電話がありました。それまで母からは電話一本も
 なかったことはありませんでした。

「ハガキ届いたよ、そんなに気をつかわなくていいから」

急にハガキが届くようになりどうしたの？ という感じでしたが、「私が書きたくて書いて
 いるだけだから気にしないで」

と、ハガキを書き続けました。

それからは、ハガキが届くと母から電話がかかってくるようになりました。

「ハガキありがとう」

「お兄ちゃんは全然連絡してこない」



「やっぱり娘は良い」

ハガキがきっかけで母と電話をするようになりました。

そして、以前み言で裁き心を傷つけて申し訳ないと思っていることを手紙に書き、手紙が届いたところに電話をかけて謝りました。母はそのときどう思ったかなど本音を話してくれました。私は何度も謝り、母は『もういいよ』と言ってくれました。

ハガキを書きはじめて3年になりました。10日、20日、30日のゼロのつく日はハガキを書く日と決めて書いています。

今までに120〜130枚は書いています。

何を書いたらいいか思いつかないときは一言だけ書いて出します。

季節感のある写真のポストカードに書いていますが 母はそのポストカードを全てファイルに入れて、アルバムのようになってくれています。

祝福も認めてくれた

また、手紙だけでなく親子関係修復のために、教会で学んだ様々なことを実践しました。

- ・ 親の言うことを聞く
- ・ 肩もみや手伝いを積極的にする
- ・ 親を賛美する

・ 誕生日、父の日、母の日のプレゼント、手紙、電話を忘れない
 そして母に対してよく口答えをしていましたが、それも我慢するように努力しました。我慢できないときはトイレにこもって泣いたりもしました。

母は私の性格が前より穏やかになった、変わった、と喜んでいました。

まだ教会のことは話していなかったのですが、東京でちょっと良い勉強をするところがあった、それで考えが変わったとだけ話しました。

私は祝福の準備も進めていましたが、祝福を受けるときは親に内緒にしない、と決めていたので、教会の話をしたときに受け入れてもらえるように考えながら親に話す準備をしました。

そしてまず母に、結婚したい人がいるということ、その人は韓国人で統一教会の人だということ、統一教会で勉強をして考え方が変わったことなどを話しました。

もし反対されるならどんな否定でも受けようと思っていました。母は「あら、そう。よかったね」と、すんなりと受け入れてくれました。

父も「自分で決めたなら反対しない」と賛成してくれました。

統一教会ってすごい！ と叔母から言われる

先にご両親を祝福へ導いた兄弟に、両親の伝道を考えているなら教会のイベントに来てもらったり、教会の人に実際に会ってもらうのが良い、と聞いていたので、韓国で2月に合同結婚式があるから来て欲しいと話しました。はじめは、海外に行ったことがないし嫌だと断られました。何回か電話をしたり帰省したりしてお願いをし、韓国に来てくれることになりました。

祝福式後、母方の伯母に統一教会で結婚する話をしたとき、「結婚したらお姑さんと同居したいと思っている」とも話しました。伯母は「今どきお姑さんと同居したいなんて言う若い子いないよ、統一教会ってすごい！ どんなことやってるの？」ととても驚いていました。

親への敬拝は神氏族メシヤの第一歩

(47歳 男性 千葉県出身)

まずは親に敬拝をささげる

「敬拝とは、偉大なる教祖にささげる宗教儀式ではなく、(本来)自分の親にささげるものである」。これは、『氏族伝道の心理学』(光言社刊、大知勇治著)で心に残った一文です。

そこには、「(氏族伝道に取り組むに当たり)最初に親に対して行ったらいいと考えているのは敬拝です」ともありました。

「親孝行講座」の中でも、「まず親に敬拝をささげましょう」と勧められました。『氏族伝道の心理学』と「親孝行講座」でほぼ同時期に同じ内容に出合ったことに何か意味を感じ、青年部全体で取り組んでみることにしました。すると、そこに「変化」が生まれたのです。それは自己伝道であり、氏族伝道の第一歩でした。

親に敬拝すると言っても、両親の目の前で敬拝するのではなく、親がいると思って、あるいは親の写真の前でささげます。中には親子関係が悪くて「敬拝なんてする気になれない」というメンバーもいます。しかし、「心情は問わないから、まずは形だけでもやってみよう」と指導しました。敬拝を続けて2カ月後に証しの場を持ちました。

すると、予想もしていなかった話が次々に飛び出してきてきたのです。以下に幾つかを紹介しま

教会で行ってきた「侍る」実践をそのまま両親に対して行う

I 姉妹（兵庫県出身、27歳）の場合

彼女は清平40日修練会中、「親孝行するにはどうしたらよいか」と祈ったときに「敬拝だ！」と答えを与えられたといえます。早速、実家に帰省し、直接ご両親を前に敬拝をささげました。

「感謝の思いを示します」とふだん真の父母様にささげるように、また背後のご先祖様への思いも込めて、深々と敬拝をしました。すると戸惑いながらも、「これテレビで見たわ」と言っ

て、韓流ドラマが好きなお母さんが喜んでくれたそうです。

この成功をきっかけに彼女は確信を持ちました。「ふだん教会生活でやっていることを、親に対してやればいいんだ」と。教会生活では神様、真の父母様や責任者に美を返し、喜んでいただくといういろいろな活動に取り組んでいます。

「教会で身につけたことを自分の親に対して行えば、両親はきっと喜んでくれる。『侍る』とは、責任者の心情を中心として生活すること。その訓練は十分受けてきたから、これをそのまま両親に向かって行えば自然と親孝行になる」、そう悟ったIさんは、教会生活で行ってきたこと

を次々と実家で実践していきました。

ご両親を誘ってカラオケに行き、歌詞を変えて感謝の思いを歌で伝えたら、家族でカラオケ大会が大盛り上がり！

「愛しています」「感謝しています」など、ふだん恥ずかしくて口に出して言えないことを韓国語で伝えると、親子の間に何とも言えない温かいものが通いました。

また、あるときはお父さんを散歩に誘って一緒にごみ拾いをすると、お父さんのほうが完全装備で張り切ってごみを拾ってくれる姿を目の当たりにし、「お父さん、すごい！」と尊敬の念が湧きました。さらに、10日に一度送っている手紙もご両親を前にして読み上げました。すると、うれしそうな笑みを浮かべて聞いてくれました。



こうして親子の関係がとても深まり、お父さん、お母さんのことがこれまで以上に大好きになったと言います。

2年間の継続で、母子関係が大きく好転

↑姉妹（北海道出身、27歳）の場合

彼女はもう2年も前から、ご両親に敬拝をささげています。実家は北海道、本人は東京ということで、離れている親に向かって、敬拝を続けました。

すると、自分の内面の変化に気づくようになりました。お母さんに対するいろいろな思いがどんどん変わり、感謝の思いへと変化していったのです。

あるとき、その感謝の思いを思い切って電話で伝えました。すると、お母さんは電話口で泣いてしまい、それを聞いた本人も涙があふれてきて泣いてしまったそうです。

東京と北海道という遠く離れた長距離電話で交わした涙のやりとり以降、母子の関係は本当に変わったといえます。今では故郷が恋しく、両親が恋しく、北海道に帰りたいと日々思うほど、両親への熱い思いを持つようになりました。

そして、そうこうするうちに、お母さんと妹がみ言を聞くようになっていきます。

敬拝をきっかけに、21年ぶりに弟と熱い握手を交わす

私の場合

「メンバーにばかりやらせてはいけけない」と思い、自分でも取り組みました。まずは両親の写真選びです。敬拝をささげるための写真を古いものから探して、写りの良い一枚を選びました。そして写真立てに入れ、それを祭壇の横に置き、その両親に向かって敬拝をささげてくださいました。

すると、何日もしないうちに変化が生じてくるのがわかりました。両親のことを考える時間が増え、写真を送ってあげよう、電話をしよう、贈り物をしようなど、自然と行動にも変化が出てきました。与えれば返って来るもので、両親からも電話や荷物が頻繁に来るようになりました。短い期間で親子関係に変化を見ることができたのは驚きでした。

そしてある日のこと、実家に行き、用事を済ませて帰ろうとしたときのことです。帰り際に「弟たちは元気でやってる？」と聞くと、両親が一斉にしゃべりだし、立ち話のまま90分も夫婦に対する悩みを打ち明けてきたのです。二世帯で住んでいると、いろいろな悩みもあるようです。

話が終わるころには辺りはすっかり暗くなっていました。そして玄関を出ようと戸を開けると、なんと会社帰りの弟とばったり鉢合わせしてしまいました。この弟は宗教嫌いで、私が信

仰初期に伝道したことを根に持って、20年以上も口をきかない関係が続いていました。こんなに近くで弟の顔を見るのは、何年ぶりかのことでした。

兄としてこれまでいろいろな思いもたまっていましたが、たった今、両親から弟に対する思いを聞いたばかりであり、またこのとき、ゴルバチョフや金日成を愛した真のお父様のお姿がぱつと思ひ浮かんだこともあって、私は自然と親しみの情を込めて、右手を出していました。それにつられるように弟も右手を出し、見事に熱い握手が交わされたのです。

正確に数えると、兄弟断絶から21年目の雪解けです。ヤコブとエサウのようでした。そして何より印象深かったのは、私たちの姿を横で見ていた母親の表情です。何も言いませんでしたが、とてもうれしそうでした。このように、敬拝をはじめたことをきっかけに、膠着していた家族の関係が一気に動き出したことに驚きを感じています。

頭を下げて静かに敬拝をしていると、親の温かい眼差しに気がつき、感謝の思いが湧いてくるように「自分」が変わっていきました。この思いを持って親に接すると、親子関係がとてもよくなりました。本当の親孝行に一步近づいた気がします。

感謝していないから伝道ができない、と真のお母様も言われます。この親への敬拝は神氏族メシヤの第一歩であることを実感させられました。

『Today's World Japan』2013年1月号より

父との信頼回復で20年間の摂食障害が改善

(34歳 女性 宮城県出身)

30年の空白期間が埋まる

2年前までの私と両親との関係は、中高生の思春期の反抗期のように、とくに父親との関係が悪く、両親に対して暴言を吐き、無視をしてしまうほどの関係でした。小中高校生時代には両親が「○○に似ている」と周囲からかわれ、いじめを受けていました。

両親に似たくない一心で、きれいになろうと高校時代にはありとあらゆるダイエットをし、それが引き金となって拒食と過食を繰り返す摂食障害を患うようになりました。

それは、今日まで私を苦しめてきました。

私は両親との関係性を改善しようとは、今まで考えたことはありませんでした。ただ、祝福を受ける以上は、両親に信仰の証しをしなければならず、いかに有利に証しをするかだけを考えて、中心者に薦められる中、渋谷親孝行講座に参加しました。

講座に参加した後に、敬拝、ハガキ、ありがとうのことば、掃除などを実践していく中で、今まで両親が私に対してきたことばや態度は親の愛情であることがわかるようになり、両親を許し、感謝する思いが湧いてきました。30年間、あまり話することがありませんでしたが、

自然に話ができるまでになってきました。

両親との関係性が改善することによって、職場の人間関係の改善、兄弟姉妹に対する苦手意識もなくなりました。毎日教会へ通うのが楽しくなり、生活の中で神様の愛に触れることが多くなって行きました。

摂食障害のトラウマ

そして私のもう一つの課題、取り組みがありました。

それは食事行でした。

取り組みとして、食事を食べるときは「ありがとう」と言い合掌していただく。料理を作る
とき、食器を扱うときはゆっくり丁寧に扱う。食べるときはよく噛んで味わって食べる。買い
置きしたままで食べない物は捨てるなどです。この講座を通し摂食障害も克服の道が開けたと
思っていました。しかし、私のなかには幼いときに患った摂食障害の傷が、心深くに潜んでい
ました。自分を正当化し目を背けていたのでした。食べることに対する煩いや恐怖感、またそ
れに反し「食べ物がなくなってしまう」という異常なまでの食欲。食事を食べすぎたり、食べ
なかつたりと偏食が日常化していました。周囲から「痩せすぎだよ」と言われるほど、痩せて
行くのもわかっていました。「病的」と気づきながらも、どうすることもできないトラウマ。

まさに一番両親に反発し拒食と過食を繰り返していた高校時代の自分がフラッシュバックし
てきていました。高校時代、過剰なまでに炭水化物を抜き、40kgまで体重を落としてはそれを
喜びとし、逆に誘惑に負け食事をしてしまったときには、その罪悪感から過食に走る。食べた
物を吐き出せないため、下剤を飲んで排泄し一時的に痩せたという達成感と喜びから、今度は
拒食に走る。

今はそこまではないものの、いつも頭の中は食べ物のことばかり考えてしまい、教会生活、
兄弟姉妹との会話も楽しめず、仕事も休憩ばかりを気にしてしまう。朝目覚めると、み言より
も冷蔵庫を開け、食べ物を口にしてしまう。神様の愛を求めたいのに、食べ物に奴隷のよう
に囚われてしまうそんな自分が嫌でした。

ある日のこと、ムシャクシャして冷蔵庫の中の物を気が狂ったように投げ捨てました。「食
べ物を粗末にするなんて」と自己嫌悪に陥りましたが、捨てることでの爽快感と冷蔵庫の食べ
物がなくなり「賞味期限が切れる」と悩むことがなくなり、心が解放されるのを感じました。

私の冷蔵庫は異常なまでに物がなく、まるで私の痩せた体のようでした。ところが冷凍庫は
物で一杯なのです。なぜかという、冷凍すればいつでも食べられるという安心感から、何で
もかんでも詰め込んでしまうからです。物がぎゅうぎゅう詰めになっている冷凍庫は、私の心
を表しているようでした。捨てるのはもったいないと物を大切にしているようで、本当に食べ

たい物ではなかったし、結局食べずに捨ててしまう「もったいない」は「物を大切にすること」ではないと気づかされました。

万物の奴隷から主人になる

万物を粗末にしていたことへの悔い改め「ごめんさい」、また私の成長のために万物が命を与えてくれたことへの感謝「ありがとう」と言って捨てていきました。すると、捨てたスペースに愛が入り込んできたのです。

「食」に対する囚われがなくなり、祈りとみ言に集中、兄弟姉妹との会話を楽しむことができ、たくさん神様の愛を感じるようになってきました。

今までの食生活はご飯よりお菓子中心でしたが、お菓子はやめて健康を意識した食事に変え、便秘も解消、持病の婦人科疾患も安定してきました。食事の取り組みから、食事量よりも質、味わうこと、自分が本当に欲する物を選択することなど、万物を大切にすることで、自分自身の心と体が健康になったのです。その万物への対し方は人間関係にも現れてきました。

この講座で両親（とくに父親）との関係が改善し、両親に教会、祝福結婚を証したときには「お前がいいと思うならいいんじゃないか？」と信頼し認められるようになりました。今年の2月に両親、中心者へバレンタインのチョコを作りたいと思いつくりだしたのですが、それ



も両親との関係が改善してきたからできたことでした。

食事行によって、自分の身を削りながら万物に「ありがとう」と思いを込めながら丁寧に扱ってつくる。そして相手に渡し、喜んでくれたときに、誰かの為につくる喜びを感じる。万物に囚われ、奴隷になるのではなく、万物に対し主人になっていることに気づかされました。

愛することで空になった心が満たされていく

今まで私は、「食事」は「悪い物」ととらえていました。ですがこの一件を通じて「食事」は「人に喜びと愛を与え、幸せをもたらす物」なんだと気づきました。そして、両親

に対して持っていたのと同じように、「食事」による「心のしこり」が消えていくのを感じました。その感覚は、職場の人間関係にも広がっていききました。職場には私を苦手に思っている、うつ病の後輩がいました。私から話しかけても無愛想で無視をされていました。

私の「心のしこり」が取れると、苦手意識のある後輩の良い部分が見えてきたのです。そして、愛しやすい人ばかりを愛するのではなく、苦手とする人も大切な存在と思え、「どんな人なんだろう」と関心を持ち、愛していこうという心が変わっていききました。私が変わることで、後輩から話しかけてくるようになりました。

摂食障害20年、私の両親、食事による心の中のしこりは完全に消えたわけではありませんが、人に与えること、愛することを通じて、両親、みんなが幸せそうに喜んで食べている姿が、私の空になった心の冷蔵庫を満たしてくれています。

自分を大切にすると人も大切にできる

(32歳 女性 広島県出身)

体の変化

親孝行講座に参加して、1週間トイレ掃除の担当になりました。講座で学んだように便座は素手で磨くようにしました。また、ときどき忘れてしまいましたが、体を洗うときは「今日も一日ありがとう」と言いながら自分の汚い部分をとくに意識して丁寧に洗うように心掛けていました。実践しはじめて私自身の嗜好も徐々に変わってきていることに気がつきました。以前はジャンクフードが大好きで、選ぶとしたら必ず揚げ物やこつてりした物を選んでいました。また、マクドナルドも大好きで、外食のときは安くて簡単に食べられて美味しいのでよく利用していました。

しかし、実践しはじめて3カ月、久しぶりにマクドナルドに行つて食べたところ、なぜか食べたことに対する自己嫌悪を感じてしまったのです。あんなに好きだったのに全く満足感を得られず、食べてしまったという後悔だけが自分の心に残りました。それからはマクドナルドにまったく行かなくなりました。

さらに数カ月後、今度はコンビニやお惣菜屋の弁当が体にすごく悪いと感じ、食時当番さん

がないときは健康に良いものを自分で買い、時間があると自分で作るようになりました。また食事も、これまではお腹がいっぱいになるまで食べても何とも感じなかったのですが、お腹いっぱい食べると動けず、苦しくなり、胃の調子もおかしくなるので、いつのまにか適量分しか食べなくなりました。まだまだ、体の疲れやだるさがありますが、徐々に体の変化を感じています。

職場の変化

私は介護施設に勤務していますが、外的で意的な性格も手伝って、施設の利用者様に接するとき、以前は早く仕事を進めなければという思いが優先してしまいがちでした。利用者様の気持ちに寄り添うことをせず、話を聞いているようで聞いてはいませんでした。利用者様の体に軟膏などを塗るときも、仕事をこなさなければという意識で、ただ塗っているだけでした。

しかしあるときから、数人の利用者様から「あなたがいなくなってしまうのは寂しいよ……よくしてくれるから……」ということばをいただくようになりました。

私のなかでは、どちらかというと外的で心情が伴っていないのが悩みで、自分の信仰課題だと思っていたため、そんなと言われるほど何もしていないのに……と思いました。

しかし、振り返ってみれば最近の利用者様に対する接し方が気づかないうちに少しずつ変化

していたのです。利用者様に軟膏を塗るときも「神様がつくってくださいった尊い体なんだなあ」と自然に思えるようになり、丁寧に易しく包み込むように軟膏を塗っている自分がいました。

また、話をする際も「老人の方は神様なのだ、だから神様と思って大切にしよう」という思いが自然に湧いてきて、少しずつ丁寧に接することができるようになりました。また、手を握ってうなずきながら話を聞くことができている自分に気づき、少しずつではありますが、変わってきているのかなと感じています。

そして、今までは自分を大切にしていなかったので、周りの人を大切にしていあげられなかったのだと反省しています。

健康は親孝行の第一歩

(28歳 女性 新潟県出身)

母を頼ることは自己否定

今の職場では、疲労やストレスで寝込むことが多く、アトピーになってしまいました。このまま仕事を続けることが難しくなり、辞めようと思うほど大変でした。

そんなときに講座に参加したところ、「健康であることが一番の親孝行である」と聞いて、体を治すために高麗人参を飲むことにしました。

また、病院に行つて治療も同時にはじめたいと思い、治療代をどうしたらいいか、思い切つて母に相談してみることになりました。今まで、私は母に甘えたこともなく、金銭的なことをお願いしたこともなかったので、母に何かを依頼することは完全に自分を否定しなくてはなりませんでした。

母が悪いのではなく自分が悪いと気づく

統一教会の信仰を持つていることの信仰告白は、2013年の夏にしました。

もともと、親子の仲は良くなく本音で語りあえない関係でした。教会のことを話してから、母は黙認してくれていますが、ますます壁ができてしまいギクシヤクしてしまっていました。そんな状態で、実家に帰るたびに疲れている私を見て母は心配して、私を見てどんな生活をしているのだろうと、悲しんでいました。

私の姿を見て悲しんでいる母に、親孝行をしてあげたい思いはあるのにできない自分。母に対する恨みの気持ちもあり、講座に参加しながらも複雑な気持ちになっていました。しかし、いつかは親や兄弟を伝道したいと祈ってはいるものの、なにも行動に移せない自分に葛藤して

しまいます。それでも、やっとの思いで母に電話をしてみました。

そして、体の事情を話すと、何も言わずにずっと聞いてくれ、私のことを本当に心配してくれていることが伝わってくるのです。

状況を説明していくと、母は「あなたの体が心配だからお金ならいくらでも出すから心配しなくていい」と言いました。私が頼ってくれたことが嬉しかったようで「なんでもしてあげたいから、なんでも言つてほしい。あなたには、本当に幸せになつてほしいとお母さんは思っている。実は、あなたがいつか結婚するときのために貯めていたお金を使つていいから」と言ってくれたのです。

今まで、愛してくれていたのに反発していた自分を本当に悔い改めさせられました。今まで本音で話せなくて、関係が悪かったのは親が悪いのではなく、自分のせいでした。自分で勝手に壁をつくってしまったことがわかり、自分から心を開いて変わらなないといけないのだと心から思われました。

母への感謝の思いがわいてきた

高麗人参を飲みはじめて体に改善の兆しが見えはじめると同時に、私の心も、だんだんと母に対する恨みの思いがなくなつてくるのを感じました。そして、両親への敬拝と、何があつて



も「ありがとうございます」と唱えることもはじめました。

すると本音で話ができるようになり、母は、私が学生のときから統一教会の信仰をしていたことを知っていたのに、わざと何も聞かずに私から言ってくれるのを待っていていたということもわかりました。私はずっと反発してきましたが、そんな私を愛してくれていた母への感謝の思いがわいてきたのです。

また、高麗人参がきっかけで身体も改善に向かい、お母さんのために何か喜んでもらえることをしたい、という思いがわいてきました。

何より良かったのが、信仰生活を続けながらも自己中心的な発想が多く、感謝できない私でしたが、み旨に対して感謝して楽しいと思えたことです。そして、大変だった体が高麗人参を

飲めば飲むほど良くなり、元気になったことも大きな喜びです。

今まで、自分から親を遠ざけて親と向き合うことをせずに、教会でがんばってきた私でした。私が今いるのは両親のおかげであるという感謝の思いがわき、親子の仲がよくなることで私の心霊が安定し、神様ご父母様に対してもよりいっそう親の愛情を実感することができました。

これからの本当の出発だと思おうので、さらに親子の関係が深まるように精誠を尽くしていきたいと思っています。

苦手な人の持ち物を大切に扱うと苦手意識がなくなる

(37歳 女性 新潟県出身)

毎日汚くなる机を掃除

私は弁護士秘書として働いていますが、人事異動が年に一〜二度あり、担当する弁護士が頻繁に代わります。

直近の人事異動(約半年前)で担当になった若い弁護士(男性)についてです。

秘書は毎朝、担当弁護士の執務室の机の上を拭き、文房具や書類を整えるところから1日が



はじまります。その先生の机の上には、抜けた髪の毛、フケ、食べこぼしやいろいろな汚れがついています。

毎日拭いても翌朝には汚れている状況で、最初はきれいにすることに抵抗がありました。秘書としてそこまで掃除をしないという選択をしても許されるのですが、私は毎日きれいに拭くことにしました。

また、電話機やPCディスプレイ等も同じように汚くなるのですが、その弁護士が使っている会社の備品たちも愛そうと思ひ、きれいにしています。

先生の机や、身の回りの会社の備品を掃除して愛そうと思った理由は、「父母の心情、僕の体」のみ言のように、具体的に僕の立場から尽くそうと思ったからです。そして、親孝行講座で聞いた内容や、他の方の証に「愛せない人がいる場合、その人の周りの万物や持ち物からでも大切に愛することで、その人も愛せるようになる」という内容を聞いたため、自分も実践しようと思ったのです。

結婚式に呼ばれるまでに

その先生は、

①机、文房具などの備品をすぐに汚す（例えば、先生の使い終わったクリアファイルは、一

度きれいに拭かないと他の人が使うものとして備品のストックに戻すことができないほどです）

②人と話をするときの物理的な距離が近く、かなり近くまで顔や身体を近づけて来て、話をする

③人との精神的な壁がないらしく、秘書の持ち物や会社の備品を（私物両方とも）本人に断りなく勝手に持って行って使い、元に戻さないことがある

④日本語の日常会話で「裏を読んで話す」ことをしないので（日本で育っていないらしいです）、日本語の文法としては間違っていないが普通の日本人なら言わないことを多く言うため、周りから誤解され、敵を作りやすい

という方なのですが、私はこうすることが毎

日あっても、いちいち驚いたり腹を立てたりしないで済むようになりました。

実は人事異動が発表になったとき、多くのほかの秘書さんから、「え!? 次、〇〇先生の担当なんですか? 大丈夫ですか? (お気の毒です)」と言われ、絶句するほどびっくりされたのですが、半年以上経過した現在も、私は精神的に苦しくなることもなく、問題なくその先生の仕事をすることができています。

また、秘書としていた仕事をしていないのですが、先生が韓国に1泊2日で海外出張に行かれたとき、会議続きでほとんど時間がなかったにもかかわらず「いつもお世話になっているから」と私に高麗人参茶(濃縮液)を免税店で買ってくださいました。

そして、先生が少し前に入籍なさったのですが、30人くらいしか呼ばない親族プラスアルファの結婚式に、私に来て欲しいとおっしゃって、招待を受けました。(式はまだ今から数カ月後にある予定です)

この先生を担当した初日から心情的な葛藤なく先生に尽くせるわけではありませんでした。朝の掃除を実践しながら、細かなこと一つひとつに腹を立てずにするようになったと思います。自分の心が安定して仕事ができていることに驚いています。感謝いたします。

親を尊敬できると兄弟関係もよくなった

(29歳 男性 東京都出身)

葛藤の中敬拝をはじめ

氏族伝道をしたかと思いはじめたのは、私が見言を学びはじめてから約1年後からでした。最初は親を伝道し、み言へとつなげるなど、はるかかなたの夢でした。伝道したいと思いつつも、家族と向き合うと自分の墮落性がでてきて葛藤し、さまざまな負の思いが湧いてきます。どうしたらいいかわからない、先の見えない、とても大きな山を超えるような闘いでした。

とにかくできることは祈祷と家族のために尽くすこと。しかし、どんなに祈祷しても家族のために尽くそうとしても、いざ家族を目の前にすると葛藤する思いをなかなか超えられず、先に進まず、氏族伝道を放棄したくなることも何度もありました。

そんな中、所属教会で「親孝行講座」があるというのを聞き、これは参加しないといけないと思いました。講座の中で一番印象に残ったのが、親として兄弟の写真に敬拝をすることです。以前氏族伝道に関する本で、親に敬拝することのすすめについて読み、講座を受ける半年前からいかに親への敬拝はなんとなく毎朝行っていました。しかし、兄弟に敬拝するという発想はありませんでした。そして、この講座を機に毎日朝と晩、両親、兄弟の写真にしっかりと敬

拝しようと思つたため決意しました。

親を尊敬する思いがわいてきた

親への敬拝をはじめから少しずつですが、まずは自分自身が変わりました。それまでは親に対して、批判する思いや、イライラ、葛藤がありました。敬拝を続けていく中で、少しずつそれらが無くなり、次第に親に対して尊敬心も出てきました。

過去の自分から考えたら、親を尊敬する感情を持つということはありえませんでした。かつては心の中で裁いてばかりいましたが、敬拝することで親に対し謙虚になれたのと、親に対する感謝の思いが湧いてきたのだと思います。今は優しくて大きな器のある両親をとっても尊敬しています。

また兄弟の写真にも敬拝をすることで、関係がよくなりました。兄弟関係がよくなると、親との関係もさらによくなりました。

写真への敬拝から実体での敬拝に

家族関係が徐々によくなり、家族で外食する機会が増えたり、兄弟同士で出かけることも増えたり、親子の時間も増えました。そして最初の親孝行講座を受けてから3カ月後には、教会

主催の1泊2日セミナーに家族全員で参加することもでき、皆非常に喜んでくれました。翌年には教会主催の青年大会に家族で来てくれたりしています。

今は母親がときどき教会に足を運んで、み言を少しずつですが、勉強するようになりました。私は次回の祝福式を目指していますが、母は祝福にも大賛成で、祝福式のために韓国まで来てくれることになりました。

氏族伝道は教会へつなげることや、み言を伝えることも大事ですが、まずは親子、兄弟の信頼関係、尊敬する心を持つところからはじまるのだと思います。

今も親の写真に敬拝をしています。これからもずっと続けようと思います。いつかは親や兄弟の前で敬拝できる日を目指し、神氏族的メシヤ勝利できるよう頑張ります。

よく受け取る心は、よく与える心

(36歳 女性 東京都出身)

娘の私より3歳下の女性との間に子供をもつけた父

親孝行講座の実践を通して、親子関係そして職場の人間関係が改善していった内容を証させ



ていただきます。

もともと、私の父は単身赴任で家にはおりませんでした。

幼少のころからよく手紙を書いていて、父との関係は良かったのですが、母が重い病気になるってから様々なことが起きていきました。

父は、病気の母を私に預けて中国へ休暇に出掛けてしまいました。そして、カラオケ店で出逢った若い女性と関係を持つようになりました。

私は仕事を辞め、そんなこととは知らず、母を介護しながら父の身の回りのお世話をする生活をしていました。

父はほとんど母に近寄らず自分の趣味に時間を費やしていました。そして、2年8カ月続いた闘病生活も幕を閉じ、母は静かに自宅で息を

引き取りました。

「お母さんの息が、止まったよ」

「そうか……わかった」

父は淡々と受け止めていました。

そして信じられないことに、お葬式の翌日から1週間、父は中国へ行ってしまうました。

その後、その女性と交際を続けながら1年ほどしたある日、女性を自宅に連れて来てこう言いました。

「しばらく日本で一緒に住むことになったから。良い子なんだ。よろしく」

さらに驚いたことに彼女は私より三つ歳下でした。

理解に苦しんだ私は、実家を出ました。その後、その女性と父との間に女の子が二人生まれました。

「俺は90まで長生きするぞ！」と父は張り切っています。そんな父を理解して受け入れていくことは、苦痛でしたし、何よりも母を裏切るようで辛かったです。

「ひどい父親だ！」と親戚は皆怒りました。しかし父は、「自分は正しい」と言っつて非を認めようとはしませんでした。

「許しなさい。そして愛しなさい」と神様の声を聞く

私は神様にどうしたらいいのかと泣きながら尋ねました。

「許しなさい。そして愛しなさい」と神様はおっしゃったのです。

父は教会の祝福は認めてくれて、お祝いもくれました。

500万円かけてリフォームした実家を「お前がずっと住んだらいいから」と与えてくれました。その他にも、衣類やお花、果物や化粧品など誕生日やクリスマスには数えきれないほどのプレゼントをしてくれました。

その都度、「お父さんありがとうございます！ 大事に使わせてもらうね」と、必ず感謝して喜んで受け取るようにしました。

笑顔と感謝で人は変わる

そのような感謝の言葉をはつきりと口にするなどの実践を10年ほど続けていくうち、最近職場である出逢いをしました。

その男性はこの地域で一番大きな会社を経営していた社長さんでした。しかし、数年前に息子さん亡くし、会社は廃業、社長さん自身も精神を病んでいました。

何もしないでフラフラしているため、家族からも煙たがられていました。



父と同年代でしたので、何か意味があると思ひ敬意をもって接していきました。

「俺はもうダメなんだ」と同じことを繰り返していましたが、讚美と承認、感謝を持って話していくうちに、だんだんと表情が明るくなっていきました。

「何にもすることがないから手伝いに来るよ！」
 と言って翌日から毎日来てくれるようになりました。

「本当に助かります！ 人手が足りなくて困っていたんです。ありがとうございます!!」と感謝を伝えるとますます嬉しそうに変わってきました。

「あなたのお父さんも、頑張ってることだし、俺ももう一回頑張ってみようかなと思ってさ！ あんたの笑顔を見ると、疲れも取れるよ」と。
 そして、苦しい胸の内も話してくれました。

「男は、弱いんだよ。つらいことに正面から向き合えないんだ」
 そう聞いたとき、「ああ、父も苦しかったんだろうな」という気持ちになりました。
 父を憎み、文句を言うことは簡単でしたが、憎しみの連鎖が生まれるだけで何の解決にもなりませんでした。

神様はイエス様を通し、真のご父母様を通して私の全てを許し、愛してくださいました。だから、私もそのように生きたいと思いました。

「良く受けることは良く与えること」

神様の愛を相続していけるよう、これからも神氏族メシヤとして継続した実践を続けていきます。

父との和解によって神の愛を実感できるように

(32歳 男性 岡山県出身)

教会を反対され話し合いは平行線

私は幼いころより、両親の顔をうかがいながら育ってきました。

とくに、父に対しては恐怖感からくる苦手意識を持ち続けていました。

2014年8月初めに両親に手紙を書き、信仰に至るまでの経緯と現在の状況を伝えていくことにしました。父が宗教に対して否定的という記憶があったので、母に仲保に立つてもらおうと思ったのです。しかし、両親ともに統一教会に対して反対していました。

そこで、9月の連休に両親が上京することとなり、食事をしながらお互いに話し合う場を設けることにしました。

9月13日、両親との食事の場は緊張感が漂うなかではじまりました。やがて、お互いに思っていることを話しはじめました。両親は「靈感商法」で統一教会批判が最も激しいときの報道を見ていたため、「統一教会」＝「お金で苦勞する、騙されている」という認識でした。

そのため、「自分たちの息子がよりによってなぜ統一教会なのか？」

ということは何度も言われ、話しは折り合いがつかせませんでした。

父を誤解し自己正当化していた

信仰や教会のことを一通り話し終わった後に、家系図を両親に見せたところ、場の雰囲気が変わり、親族について知らなかったことが明らかになったり、両親の個人路程を聞くことができました。

とくに、父の個人路程や私に対する思いを聞いていくうちに、私自身がいかに両親に対して大きな誤解を抱いていたかということに気づかされました。

9月15日、両親が「帰る前にもう一度会いたい」ということで、改めて時間を取り、食事をしました。

そのとき父は、自分たちがともに唯一信頼している方に、私の信仰について相談をしたというのです。その方の返事は「長い目で見て、そっとしてあげなさい」ということだったそうで、父自身もそう思ったそうです。思わぬところで協力をいただき、守られていること、導かれていることを実感しました。

お店を出た後、散策しながら父に「そっとしておこう」と思った理由を尋ねたところ、過去のオウム真理教信者に対する、強制棄教・脱会の報道を見たことを思い出し、「強制的に辞めさせようすることで、家族が崩壊するのは絶対に避けたい」と思ったそうです。

初めて、両親と本格的に向き合うことを通して、どれほどの長い期間、父のことを誤解してきたのか、自分の中に歪んだ父親像を描き、傷つきやすい自分を自己正当化していたんだということに気づかされました。

愛をもって接しながらも、理解してもらえない、反発されるもどかしさ、どれほどに苦勞し忍耐しここまで私を育ててきたのか、どれほどに深い愛で私を愛してくれたのかに気づくことができていませんでした。

両親の姿に神様の愛を感じて

それは父の愛であったと同時に神様の私に対する愛であることを悟り、神様に対する自分自身の姿勢・態度に気づき、どれほど親を理解しようとしていなかったかを知り、己の無知、愚かさを悔い改めることができたのでした。

両親と別れ際に、抱き合いながら感謝のことを伝えました。

このとき、父は「(私が)小さいときにもっと抱きしめてあげていたら」と言っていました。

両親を見送った後、一人帰路についていると、とても込み上げてくる思いがあり、涙が溢れてきました。

それは、親なる神様がすぐ側にいてくださり、心情的にとっても近く感じるができるようになった喜びからでした。



祝福を喜んでくれる父

2014年5月に祝福マッチングの申請をしていましたが、両親との問題が解決した数日後に、相対者の紹介をいただくこととなりました。このことを通して、父子関係が改善されたことで、サタン分立され、蕩滅条件が立ったこと、霊的な基台が立ったことを実感しました。そして、年末年始の連休に実家に帰省しました。帰省の目的は、マッチングを受けて以来会っていないかった弟夫婦と会い、家族写真を撮ることと、マッチングを受けたことと相対者のことを紹介して、結婚の意思があることを報告することでした。

帰省に関しては、両親との関係が改善されていたため、安心感を持って家族とともに良い時

間を過ごしたいという気持ちでいっぱいでした。実家に帰ってからは自然な会話ができ、とてもくつろぐことができました。

しかし、いざ結婚の話をしようと思いタイミングを見計らうのですが、うまくいかないまま時間が過ぎていきました。焦りが出はじめたころ、両親の方から歩み寄ってくれ、話を聞いてくれる場が与えられました。

その場で、両親に「お見合いをして交際をはじめた人がいる」「その人と結婚する」「お互いに統一教会の信仰を持っている」ということを伝えました。

統一教会の信仰を持つことに対しては、変わらず反対の気持ちはあるようでしたが、結婚することについては、両親はずっと心配していたことだったので、安心したとともに快諾してくれました。

また、相対者の写真を見せたところ、結婚をより現実的に捉えてくれたとともに、とくに父の心がパツと晴れて、とてもはしゃぐような笑顔で喜んでくれました。父を見て、この結婚をご先祖様も喜んでくださっているんだなと実感しました。

結婚の報告をした後、両親の結婚前後の話、私や弟が生まれてからの話や近い将来のことなどを話し合いました。そのとき感じたことは、この両親があつてこそ「私」という性相と形状を持った人間が生まれたんだな、ということでした。

この家族が心の壁なく向き合える団らんの時間がいつまでも続けばいいのという思いでした。

本然の私、本然の家庭の復帰を願う神様

私が帰省している間、相手者も実家に帰省して、ご両親に信仰と結婚を証しすることを目標としていました。

メールでお互いの状況を逐一連絡し合い、心情的な基台を立てて両親に向かっていきました。すると、相手者のご両親も彼女の信仰に強く反対されることもなく、結婚することについては喜んでくれたそうです。

このように良い方向に導かれたことに強く霊界からの協力があつたことを感じました。

両親に信仰を証した9月以降、私は「10日に一度、手紙を書く」こと、「毎日、家族に敬拝する」ことをはじめました。

最初は義務感が先だつていましたが、続けていくうちに気持ちも伴ってくるようになりました。

手紙に関しては、現在のありのままの私の状況・心境・仕事・趣味・美味しかったもの等を率直に伝えることで、両親は喜んでくれるとわかり、安心感とともに楽しんで続けることがで

きるようになりました。

今回両親と向き合うことを通して、神様は本然の私、本然の家庭を復帰することを本当に願っておられるということを実感することができました。

また、親子関係が修復され、深く開拓されることで、神様、父母様から愛されている実感が深まり、たくさんの安心感を得て、自尊心が高まるようになりました。

これからは相手者とともに神氏族メシヤとして氏族伝道に努めていきたいです。

講座に参加した方からの手紙とハガキから

13年ぶりに父親と再会 (女性)

講座の内容を通して、父と向き合うきっかけをあたえてくださったことに感謝しております。親に「ありがとう」と言いながら敬拝を捧げる取り組みは、正直勇気のいることでした。悔しくて涙が出るほどの思いもりましたが、13年ぶりに父と再会して初めて怨みから解放されるのを感じました。ことばにならない感動と出会い、愛することの素晴らしさを学びました。授受の回路を回復してもう一度父との関係をやり直したいと思います。



母の日のカードが飾られていた (男性)

毎年親や兄弟に誕生日プレゼントを贈っているのですが、最近では手紙やメッセージカードを添えるようにしました。去年の年末に帰省したとき、ふと実家の棚に母の日に贈ったメッセージカードが飾られているのを見ました。また祖母のお見舞いときに、普段寝たきりでまともに話ができない祖母が自分の送った手紙に対しては反応がありました。そのようなことを見ると、ああ本当に喜んでるんだなと心の中で強く感じました。

トイレ掃除で冷え症改善 (女性)

トイレ掃除を実践していますが、冷え症が解消されました!! あんなに夏でも冷えてい

たのですが、いつの間にか血液の流れがよくなっているのを実感しています。それもあってか朝の目覚めもよくなってきたように感じます。万々歳です。トイレにもいぜんより愛着がわき、朝、トイレに会いに行きます。

トイレ掃除で心情復帰 (男性)

講座を受けた翌日、私はさっそく学舎(カープセンター)のトイレ掃除を行いました。学舎のトイレでとくに尿便器の方は、中の細かい所まで掃除は行き届いておらず、黄ばみや水垢がこびりついている状態になっていました。その垢を素手で磨いても磨いてもなかなか落ちないなかで、諦めず拭き続けていると、少し本来の白い姿が現れてきました。その姿を見たときは本当に喜びがあふれて……。

神様も墮落した人類を見つめるときは確かにこの便器のように汚れにまみれ、本来の姿が見えないような状態なのかもしれないけれど、少しでも本来の姿が現れたときにはこのような喜びを覚えながら、希望を抱いて復帰摂理をしておられるのだと心情復帰させてもらいました。

またここまで汚れながらも不平を言わず全てを受け止め主人を待ち続けていた便器が本当に慕わしく、素晴らしいというのを感じて「ありがとう」と言いながら涙を流している自分がありました。今まで初めての体験でした。



この現象から自分は万物や環境への感謝がなかったのだと悟られました。

親と向き合うことは自分と向き合うこと（女性）

「統一教会に入教して良かった」です。

今、そう思っています。

親と向き合うことは自分とも向き合うことにつながり、なおかつ、反対されることを通じて自分自身の本質的な課題が見えてきます。

第6章

親孝行に関連するみ言



全ての愛の中で最も偉大な愛は親の愛です

文鮮明先生のみ言より

負債を返そう

両親から受けついだ体

今日は「負債を返そう」という題で話しましょう。

あなた方が負債を持つていても持つていなくても、このことについてよく考えてみましょう。あなた方は生まれる前に、少なくとも9カ月間はお母さんのお腹の中に住んでいました。そして3、4カ月間ほど、あなた方のお母さんは吐き気をもよおし、何も食べられないということが続きます。そのようにして、赤ちゃんの時にあなた方はお母さんに犠牲を与えてきたのです。女は肉体的にか弱いから、赤ちゃんがお腹にいる時は普通の時よりももっと旦那さんの助けと愛が必要です。そういうことから、お母さんを通してお父さんまでも動かしてきたのです。例え、お産の経験があつたとしても、お母さんは分娩を恐れます。その時は本当に死ぬような思いをするのです。あなた方を生み出す時、お母さんがどれほど苦しんだかわかりますか。どんなに苦しくても誰にも頼ることができません。旦那さんにも頼りません。そういう状態に陥るのです。皆そうです。お母さんのお腹の中にいた時は、誰もがお母さんの苦しみの原因になったのです。

そういうことから考えてみても、あなた方はお母さんやお父さんに大層恩があるのです。

そういうふうにしてお母さんを苦しめてきたにもかかわらず生まれると非常に喜んで、子供を可愛がります。それが、もしも何か他のことで誰かがあなたに苦痛を与えたとするならばその人を嫌い、そして殴りつけたいと思うこともあるでしょう。

あなた方のお母さんがあなた方を生んだ時に経験した苦痛と同じ苦痛を、あなた方も3年毎に味わうならお母さんに孝行するようになりますよ。

かつてお母さんにそういう苦痛を与えてきたのだと、考えたことがありますか？(いいえ)。それどころかお母さんに対して言いたいことを言い、やりたいことをやらせてもらえらると思つている。そしてまるで、自分一人ですべて生まれたように思つている状態です。

もしも、お腹がすいて今にも飢え死にしそうだというようなことになった時は、友達の所へ訪ねて行って食事させてもらった場合、その友人に対してどんなにか感謝することでしょう。そのように私たちは、何か困難な事に出合った場合、誰かに例えば親類の人とか友達などから助けられた時に、非常に感謝すると思います。しかし、自分のお母さんに感謝したことがありますか？ 自分が生まれる時、お母さんに非常な苦痛をあたえてきたということを思つて、友



達に感謝する以上にその何倍も感謝すべきです。

あなた方がこの世に生まれてくる前に、その目、鼻、口がつくられる期間がありました。全ての細胞は、お母さんのお腹の中で形づくられたものです。

毎朝、鏡を見るでしょう。そんな時、自分の目や鼻や口や耳がどのようなにしてできたのだろうと考えたことがありますか。自分の顔をよく調べてみると、自分の目がお母さんの目に、耳はお父さんに、鼻はお父さんに、口はお母さんに似ていることがわかるでしょう。まさにお父さんとお母さんの写しです。

そう思ったら自分をいかげんにできなくなってきました。自分の顔は、実に貴重なものになってきます。そう思ったら、もつともつと、お父さんやお母さんと話し合うようになるでしょう。また、お父さんやお母さんをもっと大切に思うようになるでしょう。自分の体の全てが、両親から受け継いだものです。だから両親に似てくるのです。

親の愛は偉大

このような観点から見る時、私たちは両親に非常に恩があるわけです。しかし、両親はあなた方に負債を返すようにと、頼んだことがありますか？ 私たちは両親から受けた負債を全て返すことはとてもできません。



生まれるとすぐ、おむつを換えたり病気になればつきつきりで看護します。そして、死にそうにでもなった時はかわりに自分の命をとってくださいと祈るのです。それが親の愛です。あなた方は、今までそんなことを考えてみたことがありますか？ 親は全く子供の犠牲になってきました。親の愛に比較できるものは、何もありません。

子供のころは毎朝遅れないで学校に着くだろうかと心配し、行儀よくしてくれるように、いい生徒であるように、と祈り求めるのです。だから、お母さんは死ぬまで一瞬たりとも心休まる時がありません。

青年になって大学に入っても、お母さんは心配から逃れることはできません。死ぬまで親は無報酬で子供の世話をします。どんな恩人よりも、最も偉大なのが親なのです。私たちは死ぬまで親から愛され、恩を受けています。

親は100歳になり、子は80歳になってもまだ子供だと思のです。たとえば、私たちが車の運転をして出かける時、親は運転に気をつけなさいと言うでしょう。そのように、親の愛は永遠で変わることがありません。他界しても私たちを愛し、見守り続けるでしょう。

全ての愛の中で最も偉大な愛は親の愛です。もしも、若い母親がまだ幼い子供を残して死んだ場合、その母親は痛みから解放されたからといって霊界で安心していると思いますか？ それとも、ますます子供のことを心配し世話をすると思いますか？ 霊界にいる母親の愛は、地上界にいた時よりもっと強いものです。そのような場合子供はお母さんが自分の世話をしてくれていることを、より強くより高い次元で知るに違いありません。

だから、私たちが両親に負債を返すことはとても不可能です。なぜなら、両親から、あらゆる恩を受けそして、永遠に恩を受けることになるからです。それゆえ、子供は親に対して子として果たさなければならぬ義務があります。もしも、親が与えてくれた愛の10分の1で、両親を愛するならば90パーセントの負債を持つこととなります。

先祖の血と汗と涙の上に

また、先生に対してはどうか。あなた方を非常に愛して導いてくれた先生がいるなら、その先生を決して忘れることはできません。だから、私たちは誕生に対しては両親から恩を受け、第二に教育してくれた先生に恩を受けています。

また、私たちは国の恩を受けております。とくに、アメリカ人は他の国の人々がひもじい思いをしている間も豊かな国に楽しんでいるので他の国に感謝していることでしょう。政府は法



律でもって私たちを守ってくれます。もし、私たちが法律に反逆しなければいつでも政府によって守られ世話を受けています。

また、全人類に感謝すべきです。アメリカは他の民族なくしてこのように豊かな祝福を受けることはなかったでしょう。各国からの輸入、輸出によって得たお金で私たちの生活がなされています。さらに、アメリカの人口自体が世界中の人々によって構成されています。黒人、白人、黄色人がアメリカ市民として住んでいます。

アメリカの文化文明はアメリカ人自身が築いたかのように思っているが、これはあなたがたの先祖が他の国から集めてきたものです。だから、みなさんは全人類から恩を受けているわけです。また、私たちは先祖の恩を受けています。この国家を築きあげた先祖のことを考えてみなさい。どれほど多くの血と汗と涙が流されたことでしょう。そういう先祖の戦いと労働の上に、今のアメリカが築かれあなた方は楽しい人生を送ることができるとはありませんか？ そんなことを思ったらどうしてヒッピーや麻薬常習者などになれないでしょう。

もしもあなた方が瀕死の状態にあるなら、とてもヒッピーなどになることはできません。現

代は十二分に食べるものを持つているが、霊的に墮落してしまりがなくなってきました。人生を嫌い、そして、ヒッピーになっていく……。

お金がないなら、麻薬を手に入れて飲むことなどできません。今のこのように豊かな環境は全て、先祖が与えてくれたものです。子供のためにと一生懸命働いてつくってくれたものです。そういう先祖の恩に対して、どのように報いますか。あまりにも大きな負債を持っています。これを全て返すことはとてもできるものではありません。

ただ吹き流される落葉のように意味のない人生を送るならば、永遠に受けてきた負債を返すことができずに死んでいくこととなります。そして霊界で、負債者として残ることになります。そういう人を神様が喜んで迎えるはずがありません。

負債を返す唯一の道

これを解決する唯一の道は「私の弟子であるという名のゆえに、この小さい者の一人に冷たい水一杯でも飲ませてくれる者は、よく言っておくが決してその報いからもれることはない」というイエス様のみ言の中にあります。

霊界にいる先祖や他の霊人体は債権者として、あなた方が全人類や子孫に負債を返して、くれることを望んでいます。そのためには、まず家庭から出発して両親や親類、兄弟姉妹、友達、

隣人を愛することです。そのようにして負債を返していくならば、そこから他の人々にも影響を及ぼすようになっていくでしょう。

川の水は常に高いところから低いところに流れます。広さや大きさに関係なく低い方へと流れます。私たちも、人々の心を満たすように、下の方に流れねばなりません。あなた方は今まで自分が負債者であるということも負債を返さねばならないなどということも、考えたこともありませんでした。しかし、神様を中心にして考えてみた場合、人間が罪人になってから神様はそういう人間を救うためにどんなに苦労してきたことでしょうか。

私たちは、実に多くの人々から負債を受けてきております。先祖から、その他いろんな人達から。一瞬一瞬が負債の積み重ねです。そういう私たちが、負債を返すためにどうあつてほしいと神様は願っているでしょうか。

神様は、あなた方が他の人々に尽くしてくれることを願っています。たとえば、親というのは親を愛する以上に兄弟姉妹が互いに愛し合ってくれ、願うものです。それは、神様にとっても同じことです。親である神様もあなた方が神様を愛する以上に兄弟姉妹を愛するこ



とを願っています。

神様を中心として考えるならば、全ての人類は兄弟姉妹です。だから、神様はあなた方が全人類を愛することを願っています。

もっと理想的なことは、あなたたちが自分の子供のように全ての人々を愛することです。そうすることが、あとあとの人類のためになっていくのです。

神様はあなた方が知識や地位や金を得ることよりも、他の人々を愛することを願っています。自分の子供なら自然に愛せます。そのように他の人々も愛さなければなりません。それが神様があなた方に願うただ一つのことです。

親は、あなた方が成功してくれることを願っています。そして、あなた方が人々からほめ讃えられるようになると、親は子供が誇らしくてたまりません。

親は、あなた方が自分自身のように兄弟姉妹を愛することを願い、同じように彼等が成功するように世話し助けてあげることが願っています。そういう親の愛の中に聖なる神の愛を見ることができます。

あなた方が本当に親孝行な息子、娘であるなら、親の愛に答え



たいと思うでしょう。それゆえ、兄弟姉妹を両親、親類、友達、そして、隣人を愛することができるようになりたいと願い、そして、善を持って、愛を持って、世界的に成功したいと願うのです。そういう友を選び、また、そういう相対者を持ちたいと望むでしょう。

さあ、本題にかえりましょう。私達は全て非常に大きな負債を持っているのだということを知りました。そして、その負債をどのようにして返すかということも学びました。

債権者達は、あなた方がお金で負債を返してほしいと願っているのではなく、あなた方の子孫やまわりの人々に返してくれることを願っております。水は下流に流れてあらゆる凹みを潤すように、神の愛を持って人々に尽くしていったなら、やがて、全てを主管する時がきます。それが、私達にとって負債を返す唯一の道です。横的には全人類の為に働き縦的には子孫の為に働くことです。

あなた方は、どのようにして負債を返すつもりですか？ 全人類の為に何を残しますか？ 子孫の為に何を残しますか？

芸術家というものは何か名作といわれるものを願っています。あなた方が残すものは何かというならば、それは人々に愛を与えることです。

愛の訓練所

できるだけ早く負債を返したいと願うなら、場所を選ばなければなりません。負債を払うに最もいい場所はどこだと思いますか？ 自分の家？ 親類の家？ 隣人の家？ 教会？ それとも、どこ？ 教会を通してすることは神を通してするということを意味します。

負債を返す最もいい場所が、教会であるのは何故だと思いますか？ 教会を通して負債を返すなら神様が喜ばれます。人類の歴史において、教会は今日に至るまで文化文明の発展に、重要な役割を果たしてきました。



もしも、キリスト教がなかったなら、今の五十州は五十民族という状態だったと思います。宗教と神の愛によって一つの目的を持って、一つにすることができたのです。それを証明することができます。

統一教会では、黒人も白人も黄色人種も一つになっています。それができるのです。何故なら、私達は、同じ目的、同じゴールを持っているからです。そういうふうの一つになるには、先ず、自分自身を、根底から否定しなければなりません。

神様の目から見たなら、白人も黒人も黄色人種もありません。

宗教を通して人々は小さな団体の目的よりも、一国のより高い目的を語り、一国の目的よりも世界について語り、さらに本質的な目的について語ります。

神の永続する教会が、全ての人々を統一する業を為すのです。あなた方は教会において、お互いに愛し合うことを訓練しているのです。学校よりももっと教会はそういう面であなた方を教育してくれます。だから教会は愛の活動舞台であり、訓練所です。このように、愛の訓練所である教会を愛することにより、もっとアメリカを愛せるようになります。もっと両親を愛せるようになるのです。こういうところから、私達は負債を最も早く返すことのできる場所として教会を選ぶのです。

先祖の代から考えてみて、ここに何カ国の人が集まっていると思いますか。全世界から集まっています。もしも、あなた方が一つになって固く統一するなら、全人類が一つになるといこうとを意味します。

このメンバーは、120カ国から集まっているとしましょう。それで、あなたに各国のメンバーが何かを頼んだとします。例えば、皆の為に指を切ってほしいと頼んだとします。そうすることが出来ますか？ そうするには120片に切らねばなりません。それは何か。自分を犠牲にすることです。

そう考えてみた時、完全な愛と献身のためには、自分自身を犠牲にしなければなりません。

自分の全てを捧げなければなりません。

犠牲の道

イエス様のみ言を読み味わう時、そこに真理の深さを知ります。「自分の生命を失わんとする者はそれを得、自分の生命を得んとする者は、それを失う」。誰かを救う為に自分自身を犠牲にするなら、その人の生命を救うのみならず自分自身の生命まで救うようになるわけです。私達は、非常に重い負債を負っているから、それを返す方法は自分自身を犠牲にする以外にありません。負債者として残るより自分の生活を犠牲にすることによって、負債を軽くする方がましというものです。

私が皆さんに、神様があなた方を愛するように、人々を愛さなければならぬと言いましたが、そのことは実感として理解できないでしょう。人類に対する神様の愛は、自分の両親を通して知ることができます。だから、自分の親を見本にして歩むことです。

あなた方の両親は、自分達のことよりもあなた方のことを心配してきました。だから、あなた方も、自分自身のように兄弟姉妹や全人類を愛さねばならないのです。そうすることによって全ての問題が解決されます。それからまた、あなた方の全ての負債も、払うことになるでしょう。その上、何らかのものを後孫に残すことになるでしょう。



私達の人生の目的は、負債を返すことです。そして、人々を愛することによって何かを残すことです。結論的に言うならば、私達がいつも唱えている「父母の心情をいただき、僕の体を受肉し、涙は人類の為に、汗は地の為に、血は天の為に流そう」という、この生き方の中にのみ負債を返し、そして、何かを残すことができるのです。

こういう生き方をしていってはじめて、天国に入る資格が与えられます。神様は、皆さんがそういう生き方をしてくれるかと心配しているのです。両親もそれを心配しているのです。他にも正しい方法はないかと探してみても、これ以外の道はないしこれ以上の道はありません。

あなた方は親、友人、先生、そして、親類の人達など誰かからいつも愛を受けてきました。それに対して利子をつけて返すことを考えるべきです。そうすることによって、ますます他の人々を愛することができるようになります。

自分に負債があると思うととても顔を上げることができません。そして、自由な考え方をしたり自由に振る舞ったりすることもできなくなります。アメリカの青年達は大変解放的で自由に振る舞っていますが、それは、自分に負債があるということに気づいていないからです。

負債を払ってから、はじめて希望を持って自由に考え、自由に語り、自由に行動することができるようになるでしょう。それが神様の願いです。まだ負債があるのに横柄に振る舞うなら、人々はその人に後ろ指を指し、悪く言うことでしょう。西洋には自分達には全く負債がないという間違った思想があるのです。

ヒッピーになって、人間を避けるような場合、それは、サタンに動かされているのです。サタンはそういう個人を通して、この国を密かに害そうとしているのです。

自分が負債者だとわかった時、その負債を返すことなくして休むことができませぬ。本当に自分は負債者だとわかったなら、その負債を返すことなくして安楽な人生を送ることはできません。いつも苦悶し、不安を感じるに違いありません。

自分自身の力で負債を払うことができるのだとわかったなら、少しは気持ちが悪くなるでしょう。だから、負債を払うことなくして私達の幸福はありません。

前に述べたように、負債を払う最もいい場所は教会です。そういう目的の為に今こうして、皆さんは統一教会にいるのです。

負債を払う方法は全人類が一つの家族になることです。私達の運動には家族、氏族、民族などという境界がありません。全



世界が一つです。そして、全ての人が私達に繋がりたいと願うことでしょう

(1975年3月9日 ベルベディアにて)

手紙に関するみ言

今度、あんた達今から父母復帰。今からは家族を先に立たせれば良い環境にずうっと一回り回るんだよ。これから父母に対して10日に一回ずつ手紙出すんだね。

お父さん今日はこういうことを日本のために、アジアのために、万民のために、こういうことをやりました。こういう時には、お父さんお母さんのこと考えました。お父さんお母さんが、自分がこういう時代に生まれて、こういう活動に参加するような娘として生んでくれて、ありがとうというような思いをします。

そして通りがかりの百貨店に何かいいものないかと、親に孝行したい思いを持って、こういう手ぬぐいを、金がたくさんないから、もつと高い物買ってあげたいんですが、この一本の安い手ぬぐいでも、親心に奉仕したいという思いで、これ買って親によこしますから、何気無し

に受け取ってください、と。まあ、過去の幼かったことはみんな許して、今後ともに愛して、そうして将来の上に祝福をお願いします、と手紙書くんだ。

それだから、あんた達手紙書けよ。自分が泣きながら書けば親も泣くんだよ。間違いないんだよ。親が感動した分、「おお、おお、兄さん、姉さん、みんな来い」親父も入れてみんな来るんだよ。「ああ、これは誰それ君の手紙がここにあるんだ。今まではずうっと家出をして、親不孝者だと思ったんだけど、実に親孝行者であることには、間違いない。我々が、誰それ君に対して今までそういうような悪い思いをしたのを一掃してしまおう」と共同宣言するんだね。そしたら手紙をずうっと読んで、その兄弟も「いやー、あれだけの孝行息子だったら、ああ、自分たちもあれに負けたらいけない」と言ってそれは励ましの手紙になるんだよ。そういう手紙から家族みんな集まって読むよ。親父いい気になって。

そしたらお母さんたち、ウーウーウー、お父さんの良い気になっておる横に座ってコソコソ泣く。泣くと子供エーエー、娘アアア。泣いて反対するという家族は絶対ないというんだ。完全にそこまでいった場合には、ああ、暖かいところは誰それ君に、良いものは誰それ君に、良いもの着させて、良いところに住まわして、こういうふうにして部落中の後援が設けられる



よ。こういう考え方でいく必要があるんだよ、あんた達は。手紙書けよ。

それからお父さんに書く時には、お父さんの文体があるんだね。字の書き方があるだろう。お父さんに書く時には、細かい字で書いたら失礼だよ。男らしく書くんだよ、カッカカッとね。そして字も活発に、まあ、昔はこういう字を書きましたけど、今はこういう活動していたから、社会の潮流は荒いんだから、自分の書き方もこう荒くなりました。

その代わりお母さんには優しくね、優しく流れる水みたいにサーサーサーとこう書いていくんだよ。「わー、これはあんなに忙しいことをやりながらも、ああ、字もきれいになったねえ」というような「いつこついつこつになつたんだろう」、昔と違うところを親は喜ぶんだよ。そういうふうにして親を伝道する。

あんた達もそうだろう。これだけいたら、まあ250名だったら、一人が二人ずつやったら

4倍だろう。4倍だったら1000名。1000名の親がいるんだね。目を真ん丸くして「韓国へ行つたんだろう。聞くところによると、うちの何か、韓国に行つたというんですが、どうやらもうさっぱりわかりませんで」みんな感心の絶頂に立っているところに良い文章書くんだね。こういうところに行つたんですが、親の思いを感じて、もう泣きたくなつてしようがありませんでした、と言つてね。

自分を育てて、こういうようなつらいこともあつたでしょう。貧しい生活やっている父母の状態知つておれば、その情報を、架空の心情圏を、これはもう良い気になつて書くんだよ。あの時の夜は、親がこういう姿でいたのを見て、こういう思いをしました。ある時は、こういう思いを。一人で親は、自分の着物作っていました。いろいろあるんだよ。朝早く学校に行く前に、こういう親の姿を見て、親の思いやりをいまだに思い浮かべます。そういうような親に対して、一度も親孝行しなかつたこういう息子であります。内心においていかにくやしい、いかに寂しい立場だったでしょう。しかしお父さん、お母さんの思うような、そういうような親不孝娘ではありません。自分ながらこういうように思い



やつてきましたと、ずうつと書く。

前は伝道活動とか、原研活動とか、日本の将来のためとか、今はそういうのもうそじゃな
いが、次々にそういう実りの圏に入つておるんだから、復帰の時も心情的に共鳴するんだね。
これは鳴らしていくんだよ。自分の思うように。すると向こうの親からちゃんと音叉みたいに
共鳴されていくよ。涙流して……。

(出典不明)



〈付録〉

クリスチャンの父が天国の娘に送った手紙 ー「私の大切なブリストルへ」

お前が生まれる前から、父さんはお前のために祈っていた。生まれてくる子は、きっと小さな天使のような子に違いないと思っていた。そして、ほんとにその通りだったんだ。

お前が生まれたのは4月7日。私の誕生日と同じ日だった。うれしそうにのどを鳴らして笑う時のお前の声、バラ色の頬、父さんの血を分けた初めての子、ことばにならないうほどの深い喜び。そしてそれ以上に、お前は私にこの世界の何よりも、「神の愛」を示してくれた。ブリストル、お前は父さんに「愛すること」を教えてくれたんだ。

お前が、思わず抱きあげたくなるようなかわいいう赤ん坊だった時、自分で寝返りできるようになり、やがて初めてことばらしいものを口にしたら時、お前は父さんの宝だった。

「何かがおかしい、でも、よその子より多少成長が遅いだけでは……」と不安に駆られた時、やがて、問題は予想したよりずっと深刻だとわかった時も、お前は父さんの宝物だった。



一縷の望みをかけて、あちこちの病院、医者から医者へと渡り歩いた時も同じだった。検査で大量の髄液を取るために脊髄に注射され、あまりの痛さにお前が泣き叫んだ時も。うめき、ぐずって寝つけないお前が何とか眠れるようにと、ママや妹たちといっしょに何時間も真夜中にドライブしたこともあったね。混乱したお前が、自分の指や唇を思いつきり咬んだ時、お前の目がすっかり寄ってしまつて、ついには視力を失った時、父さんは涙が出るほどお前がいとおしかった。

口も利けなくなつてしまつたお前は、以前にもまして父さんの宝物だった。でも、どれほどお前の声をもう一度聞きたかつたことか。病気はお前の体をねじりパンのようによじりはじめた。食べ物や喉につかえるので、ひと匙ひと匙すくっては2時間かけて口に入れてあげていたらけれど、とうとうお腹に食べ物を通す管を使うことになつてしまつた。お前の手足がねじれてしまつたので、汚れたおむつを替えるのはたいへんな作業だった。日に何度も。10年間、毎日毎日。それでもお前は父さんの宝だった。ブリストル、お前がもう二度と、あの「パパ、大好き」を言えなくなつてしまつても。

神を近く感じた時も、ずっと遠くにしか感じられなかつた時も、信仰に燃えていた時も、神さまにむかつて腹を立てていた時も、ブリストル、お前は私の宝物だった。

こんなつらい中でも、お前を愛さずにいられなかつたのは、父さんの心に神が「愛」

を与えてくれたからだった。人間の体や心の目が、あるいは口が不自由でねじ曲かつていようとも、神は私たちを愛している。神さまの愛はなんて不思議なんだろう。たとい「神さま、あなたを愛します」と言えないような私たちでも、神は愛してください。

お前は今ではもう完全に自由なんだね、ブリストル。神さまが約束してくださつた「その日」を、父さんは楽しみにしているよ。健康な体で喜びにあふれているお前と、神の御前で再会できる日を。家族の中で最初にお前が、神さまから冠をいただいたことを、父さんはうれしく思っている。みんなも後から行くよ。神の定められた時に。

お前が生まれる前から、父さんはお前のことを祈つていた。きっと小さな天使のような子に違いないと思つていた。そして、ほんとにそのとおりでたつた。

愛をこめて 父さんより

ジェイムズ・ドブソン著『苦難の時にも』



【著者プロフィール】

澤田拓也（さわだ たくや）

1961年青森県生まれ、早稲田大学政経学部卒。
在学中に入信し、卒業後はカーブ本部で拉致
監禁問題など担当。

南東京教区孝成教会教会長を経て、2008年か
ら教団本部渉外部長に。

青年の親子関係改善のために「親孝行講座」
を全国で実施。

6500双祝福家庭で子女4人。

趣味は登山、トイレ掃除、献血。

「親孝行講座」参加対象のグループメールが
あります。毎週すばらしい証しや私のお役立
ちコラムなどを送信しています。

ご希望の方、関心のある方は氏名、所属教会、
書籍の感想などを記入の上、

sawada@uc-japan.org

までメールをお送りください。

統一原理と親孝行

親子関係は幸せの鍵

2015年6月10日 発行

2015年7月20日 第2刷発行

発行 世界基督教統一神霊協会広報局
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-1-2
tel.03-3467-3181
<http://www.ucjp.org>
